

其收益ノ額ニ至ルマテ借貸ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ貸貸借ニ付テハ此限ニ在ラス
第六百十條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 賃借物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルトキハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應ジテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 賃借人ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃借人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賃借人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十四條 借賃ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滞ナク之ヲ賃借人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃借

借ニ之ヲ準用ス

第三款 賃貸借ノ終了

第六百十七條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解除ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ三箇月

三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃借人

又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八節 雇傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス 期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス 勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三箇月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但し其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六箇月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三箇月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但し其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要ヒサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラザル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス
工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限リ契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節 委任

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其願末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取りタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡

スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス
第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲
メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其
賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間
ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス
委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ中途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ
其既ニ爲シタル履行ノ場合ニ應ジテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其
前拂ヲ爲スコトヲ要ス
第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出ダシタルトキハ委任者
ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代
ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其
賠償ヲ請求スルコトヲ得
第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スル
コトヲ要ス但自己ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラズ

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告
ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人
ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分
ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトナ間ハ之ヲ相手
方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス
第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ
因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保
管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七百七條第
二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一

ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其實質ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ存ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ適用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其終了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セラレルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メザリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ

應シテ之ヲ定ム
利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラサリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス
組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脱退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産
- 四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得
脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ假額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其續列ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉ス又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知りタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滞ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出ダシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス
管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受ケル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知りタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時效ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ間ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ使リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ損害アル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其實ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ應シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ
占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ
教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス

第七百二十條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス
第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得
第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得
第七百二十四條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

人事篇

(明治二十三年十月法律第九十八號)

第一章 私權ノ享有及ビ行使

第一條 凡ソ人ハ私權ヲ享有シ法律ニ定メタル無能力者ニ非サル限リハ自ラ其私權ヲ行使スルコトヲ得

第二條 胎内ノ子ト雖モ其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ生マレタル者ト看做ス

第三條 私權ノ行使ニ關スル成年ハ滿二十年トス但法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第四條 外國人ハ法律又ハ條約ニ禁止アルモノヲ除ク外私權ヲ享有ス

第五條 法人ハ公私ヲ問ハス法律ノ認許スルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス又法律ノ規定ニ從フニ非サレハ私權ヲ享有スルコトヲ得ス

第六條 法律ハ外國法人ノ成立ヲ認許セス但條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス

成立ノ認許ヲ得タル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ享有ス但條約中又ハ認許中ニ其權利ヲ制限シタルトキハ此限ニ在ラス

第二章 國民分限

第一節 國民分限ノ取得

第七條 日本人ノ子ハ外國ニ於テ生マレタルトキト雖モ日本人トス

父母分限ヲ異ニスルトキハ父ノ分限ヲ以テ子ノ分限ヲ定ム

父ノ知レサルトキハ子ハ母ノ分限ニ從フ

父母共ニ知レサルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ハ日本人トス若シ其出生地ノ知レサルトキハ現ニ日本國內ニ在ル者ハ日本人トス

第八條 左ノ場合中ノ一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ選擇スルコトヲ得

第一 父方外國人タルモ母ノ日本人タルトキ

第二 外國人ノ子タルモ日本ニ生マレタルトキ

第三 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ニシテ其分限喪失ノ後ニ生マレタル者ナルトキ

第四 歸化人ノ子ニシテ成年者ナルトキ

第九條 日本人ノ分限ヲ選擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒテ成年ニ至リシ時ヨリ一箇年内ニ其意思ヲ申述シ且其申述ヨリ一箇年内ニ住所ヲ日本ニ定ム可シ

成年ノ後ニ至リテ外國人ノ認知シタル私出子ハ認知ヨリ又歸化人ノ子ハ歸化ヨリ一箇年内ニ右ノ申述ヲ爲スコトヲ得

第十條 日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ日本人ノ分限ヲ取得シ婚姻解消ノ後ト雖モ其分限ヲ保有ス

第十一條 外國人ハ歸化ニ因リテ日本人ノ分限ヲ取得スルコトヲ得其條件及ヒ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

歸化人ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ日本ニ住居ヲ定メタルトキハ日本人ノ分限ヲ取得ス

第十二條 第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

第一 任意ニ外國人ノ分限ヲ取得シタルトキ

第二 日本政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外國ノ軍隊ニ入りタルトキ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者其分限ヲ回復セント欲スルトキハ日本政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且一箇年内ニ住所ヲ日本ニ定ムルトキハ其分限ヲ回復ス

第十四條 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ引續キ日本ニ住居スルニ非サレハ日本ノ分限ヲ失フ但婦ハ第十五條第二項ノ規定ニ從ヒ又未成年ノ子ハ第九條第一項ノ規定ニ從ヒ其分限ヲ回復スルコトヲ得

第十五條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ日本人ノ分限ヲ失フ

然レトモ婚姻解消ノ後日本ニ住居シ又ハ復歸シ且日本ニ住所ヲ定ムルコトヲ申述スルトキハ其分限ヲ回復ス

第三節 國民分限變更ノ方式及ヒ效力

第十六條 國民分限ノ變更ニ關スル申述ハ日本ニ在リテハ住居地ノ身分取扱吏ニ外國ニ在リテハ日本公使館又ハ日本領事館ニ之ヲ爲ス可シ

此申述ハ部理代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條 國民分限ノ變更ハ將來ニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十八條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ懷胎ヨリ出生マテノ間父又ハ母ノ分限ニ變更アリタルトキハ子ハ日本ニ住居スル場合ニ限リ日本人ノ分限ヲ保有ス

第三章 親屬及ヒ姻屬

第十九條 親屬トハ血統ノ相聯絡スル者ノ關係ヲ謂フ

六親等ノ外ハ親屬ノ關係アルモ民法上ノ效力ヲ生セス

七十百

法

第二十條 親屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等トス

親等ノ連續スルヲ親系ト爲ス彼ヨリ此ニ直下スル者ノ親系ヲ直系ト謂ヒ其直下セスシテ同始祖ニ出ツル者ノ親系ヲ傍系ト謂フ

直系ニ於テ自己ノ出ツル所ノ親族ヲ尊屬親ト謂ヒ自己ヨリ出ツル所ノ親族ヲ卑屬親ト謂フ

第二十一條 直系ニ於テハ親族ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム
傍系ニ於テハ親族ノ一人ヨリ同始祖ニ遡リ又其始祖ヨリ他ノ一人ニ下タル其間ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム

第二十二條 養子縁組ハ養子ト養父母及ヒ其親族トノ間ニ親屬ニ同シキ關係ヲ生ス但養子トハ男女ヲ總稱ス

第二十三條 嫡母繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ關係ハ親子ニ準ス

第二十四條 婚姻トハ婚姻ニ因リテ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ親族トノ間ニ生スル關係ヲ謂フ然レトモ婦ノ夫家ニ於ケル又入夫ノ婦家ニ於ケル尊屬親トノ關係ハ親屬ニ準ス

第二十五條 夫婦ノ一方ノ親族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族トス
姻屬ノ關係ハ婚姻無効ノ判決又ハ離婚ニ因リテ止ム又生存配偶者其家ヲ去ルニ因リテ止ム

第二十六條 直系ノ親族ハ相互ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス
嫡母繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ間及婦又ハ入夫ト夫家又ハ婦家ノ尊屬親トノ間モ亦同シ

第二十七條 兄弟姉妹ノ間ニハ疾病其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リテ自ラ生活スル能ハサル場合ニ限リ相互ニ養料ヲ給スル義務アリ

第二十八條 養料ノ義務ヲ負擔ス可キ者ノ順位ハ左ノ如シ

- 第一 第二十六條ニ掲ケタル者
- 第二 兄弟姉妹

直系ノ親族ノ間ハ其親等ノ最モ近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス

第二十九條 養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ必需ト之ヲ給ス可キ者ノ資産トニ應ジテ其額ヲ定ム

第四章 婚姻
第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第三十條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 配偶者アル者ハ重子テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ヲ除ク外女ハ前婚解消ノ後六箇月内ニ再婚ヲ爲スコトヲ得ス
此制禁ハ其分婉シタル日ヨリ止ム

第三十三條 姦通ノ原因ニ由リテ離婚ノ裁判ヲ言渡サレタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 直系ニ於テハ尊屬親ト卑屬親トノ間婚姻ヲ禁ス

第三十五條 傍系ニ於テハ兄弟姉妹及ヒ伯叔父姑甥姪ノ間婚姻ヲ禁ス

第三十六條 直系ノ姻族ノ間ハ其關係ノ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十七條 養子ト養父母又ハ其尊屬親トノ間及ヒ養父母又ハ其尊屬親ト養子ノ配偶者又ハ其卑屬親トノ間ハ離縁ノ後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十八條 子ハ父母ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル
繼父又ハ繼母アル場合ニ於テ其配偶者タル母又ハ父ノ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキ
ハ繼父又ハ繼母ノ許諾ヲ受ク可シ其許諾ニ付テハ第九章第三節ノ規定ヲ適用ス
第三十九條 父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可
シ

祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第四十條 父母祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ滿二十年ニ至ラサル者ニ
限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十一條 父母ノ知レサル子ハ二十年未滿ニ限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十二條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ婚姻ハ二十年未滿ニ限リ院長ノ許諾ヲ受ク可シ

第二節 婚姻ノ儀式

第四十三條 婚姻ノ儀式ハ當事者ノ一方ノ住所又ハ居所ノ地ニ於テ之ヲ行フ可シ

雙方ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ前ニ其地ノ身分取扱吏ニ婚姻ヲ爲サントスル申出ヲ爲スコトヲ要ス但
此申出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 雙方ハ前條ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ

第一 出生證書

第二 前婚ノ解消ヲ證スル證書

第三 婚姻ニ必要ナル許諾書又ハ其許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第四十五條 雙方又ハ一方カ出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ出生地、住所又ハ居所ノ區裁判

所ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スルコトヲ得
保證書ハ男女ヲ問ハス又親族ト否トヲ問ハス證人二人カ左ノ諸件ニ付キ區裁判所ニ爲シタル申
述ヲ記載ス

第一 本人ノ氏名、職業、住所及ヒ居所並ニ其父母分明ナルトキハ其氏名、職業、住所及ヒ居所

第二 本人ノ出生ノ地及ヒ年月日

第三 本人ノ出生證書ヲ呈示スル能ハサル原因及ヒ證人ノ其事實ヲ聞知シタル緣由

第四十六條 身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ障礙ト爲ル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リタルト
キハ其儀式ヲ行フコトヲ差止ム可シ

此場合ニ於テハ身分取扱吏ハ理由ヲ記シタル差止書ヲ授付ス可シ

當事者此差止ヲ不當ナリト思料スルトキハ區裁判所ニ抗告シテ其取消ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ休暇事件ト同シク之ヲ取扱フ可シ

第四十七條 婚姻ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ其儀式ヲ行フニ因リテ成ル

當事者ノ承諾ハ此儀式ヲ行フニ因リテ成立ス

第四十八條 婚姻ノ儀式ハ其申出ノ日ヨリ三日後三十日內ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第四十九條 婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ雙方ヨリ十日內ニ身分取扱吏ニ其届出ヲ爲スコシ但此
届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三節 日本外外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻

第五十條 外國ニ於テ日本人ノ間又ハ日本人ト外國人トノ間ニ婚姻ヲ爲ストキハ其國ノ規則ニ

從ヒテ儀式ヲ行フコトヲ得但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第五十一條 外國ニ於テ日本人ノ間ニ日本ノ規則ニ從ヒテ婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ在ル日本公使館又ハ日本領事館ニ婚姻ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス
婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ第四十九條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス
第五十二條 日本ニ於テ外國人カ婚姻ヲ爲サントスルトキハ其能力ハ本國ノ法律ニ從フ但第三十一條乃至第三十七條ノ條件ニ違背セザルコトヲ要ス
外國人ハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ婚姻ヲ爲スニ障礙ナキコトヲ證スル本國相當官署ノ認定書ヲ差出タス可シ

第四節 婚姻成立ノ證據

第五十三條 婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ舉ク可シ但第二百九十一條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

第五十四條 婚姻證書ヲ増減シ毀棄シ隱匿シ又ハ片紙ニ記載シタル場合ニ於テ刑事事又ハ民事ノ訴訟ニ因リテ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ婚姻證書ニ代用スルコトヲ得

第五節 婚姻ノ不成立及ヒ無効

第五十五條 入達、喪心又ハ強暴ニ因リテ雙方又ハ一方ノ承諾ノ全ク欠缺シタル婚姻ノ不成立トス

第三十四條乃至第三十七條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル婚姻モ亦不成立トス
婚姻ノ不成立ハ何人ニ限ラス何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條 第三十條第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ニ違ヒテ婚姻ヲ爲シタルトキハ雙方、尊屬親又ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無効ヲ請求スルコトヲ得

右同一ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ生存中ニ限り職權ヲ以テ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 不適齡ニ付キ無効ヲ請求スル權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 第一 適齡ナラザリシ者カ適齡ニ至レル後明示ニテ婚姻ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキ
- 第二 無効ノ請求後ト雖モ婦カ適齡ナラスシテ懐胎シタルトキ
- 第三 夫カ適齡ナラスシテ婦ノ懐胎シタルトキ但婦ノ姦通ヲ證スルトキハ格別ナリトス
- 第五十八條 重婚ニ原因スル婚姻無効ノ請求アリタル場合ニ於テ後婚ノ雙方カ前婚ノ不成立、無効又ハ離婚ヲ主張スルトキハ先ツ其裁判ヲ爲スコトヲ得

前婚ノ配偶者カ失踪シタルトキハ其失踪中ハ重婚ノ無効訴訟ヲ行フコトヲ得ス

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ婚姻ハ無効トス
第一 身分取扱吏ニ婚姻ノ申出ヲ爲サス又ハ其差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行ヒタルトキ

第二 身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

此無効ハ第五十六條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但婚姻儀式後一箇年ヲ過キタルトキハ無効訴訟ヲ行フコトヲ得ス

第六十條 第三十八條乃至第四十二條ニ定メタル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ其許諾ヲ與フ可キ者又ハ之ヲ受ク可キ者ヨリ其無効ヲ請求スルコトヲ得
許諾アリタル場合ト雖モ其許諾カ強暴ニ原因シタルトキモ亦同シ

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ婚姻ヲ認諾セスシテ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ法律ニ定メタル順位ニ從ヒテ其許諾ヲ與フ可キ者ハ無効訴權ヲ行フコトヲ得

第六十二條 第六十條ニ掲ケタル無効訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ認諾ヲ爲シ又ハ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三箇月ヲ過キタルトキ

第二 三箇月内ト雖モ許諾ヲ受ク可キ者カ婚姻上ノ成年ニ至リ又ハ死亡シタルトキ

第六十三條 強暴ニ因リテ承諾ニ瑕疵アル婚姻ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 前條ノ場合ニ於テ配偶者強暴ヲ免カレタル後明示ニテ認諾シ又ハ三箇月間引續キ同居シタルトキハ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得ス其同居セサル場合ニ於テモ無効訴權ハ一箇年ヲ以テ消滅ス

第六十五條 裁判所ハ婚姻ノ不成立又ハ無効ノ訴訟中夫婦ノ一方ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ婦又ハ夫ニ住家ヲ去ル可キヲ命スルコトヲ得

第六十六條 無効ノ言渡アリタル婚姻ハ子ニ付テハ其出生ノ婚姻前後ナルヲ問ハス法律上ノ效力ヲ生ス

第六節 婚姻ノ効力

第六十七條 婚姻ハ其儀式ヲ行ヒタル日ヨリ效力ヲ生ス但夫婦財産契約ニ付テハ婚姻ノ届出後ニ非サレハ第三者ニ對シテ婚姻ノ效力ヲ採用スルコトヲ得ス

第六十八條 婦ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ贈與ヲ爲シ之ヲ受諾シ不動產ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ借財ヲ爲シ債權ヲ讓渡シ之ヲ質入シ元本ヲ領收シ保證ヲ約シ及ヒ身體ニ關係シテ受ケル約束ヲ爲スコトヲ得ス又ハ和解ヲ爲シ仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ス

第六十九條 夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得但總括ノ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

夫ハ夫婦財産契約ニ依リテ與ヘタル總括ノ許可ト雖モ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第七十條 左ノ場合ニ於テハ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス

第一 夫カ失踪ノ推定ヲ受ケタルトキ

第二 夫カ禁治產又ハ准禁治產ヲ受ケタルトキ

第三 夫カ氣癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ルトキ

第七十一條 夫ハ婦ニ與ヘタル許可ニ因リテ義務ヲ負擔セス

第七十二條 夫ノ許可ヲ得スシテ婦ノ爲シタル行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

此銷除ハ夫婦ノ各自及ヒ婦ノ承繼人ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十三條 夫ニ屬スル銷除訴權ハ其銷除シ得ヘキ行爲ヲ知リタル日ヨリ五箇年ノ時効ニ因リ又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ消滅ス

婦及ヒ其承繼人ニ屬スル銷除訴權ハ婚姻解消ノ日ヨリ五箇年ノ時効ニ因リテ消滅ス
財産編第五百四十四條以下ノ規定ハ本條ノ銷除訴權ニ之ヲ適用ス

第七節 罰則

第七十四條 婚姻申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ

過料ニ處ス

第七十五條 婚姻ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因アルヲ知リテ其儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 第三十二條ノ制禁ニ違背シテ再婚ヲ爲シタル婦ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其情ヲ知リテ婚姻ヲ爲シタル夫及ヒ婚姻ノ儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏モ亦同シ

第七十七條 夫婦ノ一方ニシテ婚姻ノ無効ヲ致シタル原因ヲ知リ之ヲ他ノ一方ニ隱秘シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 離婚

第一節 協議ノ離婚

第七十八條 夫婦ハ下ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 離婚セントスル夫婦ハ婚姻許諾ノ爲メ第四章第一節ニ定メタル規則ニ從ヒ各其父母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八十條 夫婦ハ離婚協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 婚姻證書

第二 離婚ノ許諾ヲ與フ可キ者ノ許諾書若シ其者死亡シ又ハ意思ヲ喪スル能ハサルトキハ死亡證書又ハ其事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離婚

第一款 離婚及ヒ不受理ノ原因

第八十一條 離婚ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 姦通但夫ノ姦通ハ刑ニ處セラレタル場合ニ限ル

第二 同居ニ堪ヘサル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第三 重罪ニ因レル處刑

第四 竊盜、詐欺取財又ハ猥褻ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第五 惡意ノ遺棄

第六 失踪ノ宣言

第七 婦又ハ入夫ヨリ其家ノ尊屬親ニ對シ又ハ尊屬親ヨリ婦又ハ入夫ニ對スル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第八十二條 離婚ノ請求ヲ爲ス一方ニ對シテ離婚ノ原因存スルトキハ他ノ一方モ反訴ヲ以テ離婚ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ前條第三號及ヒ第四號ニ記載スル重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル一方ハ他ノ一方ノ處刑ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ス

第二款 假處分

第八十三條 離婚ノ訴訟中子ノ監護ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス夫ニ屬ス但入夫及ヒ婚養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ其監護ヲ他ノ一方又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第八十四條 離婚ノ訴訟中婦ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス裁判所ノ許可ヲ得テ住家ヲ去ルコトヲ得此場合ニ於テハ自己ノ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ

得

裁判所ハ夫ノ意見ヲ聽キテ婦ノ移居ス可キ家屋ヲ指示スルコトヲ要ス若シ婦カ正當ノ理由ナクシテ其家屋ヲ去ルトキハ夫ハ養料ヲ拒ムコトヲ得

第八十五條 入夫及ヒ婿養子ニ付テハ裁判所ハ離婚ノ訴訟中夫ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用ス

第八十六條 裁判所ハ住家ヲ去ル婦又ハ夫ノ請求ニ因リ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三款 離婚ノ訴

第八十七條 離婚ヲ請求スル訴權ハ夫婦ノミニ屬ス

第八十八條 離婚ノ原因ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ自白ノミヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス又卑屬親ヲ除ク外親族、姻族又ハ雇人ニ關スル忌避ノ規定ヲ適用セス

第三節 離婚ノ效力

第八十九條 離婚ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第九十條 離婚ノ後子ノ監護ハ夫ニ屬ス但入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ之ヲ他ノ一方又ハ第三者ノ監護ニ付ルコトヲ得

第六章 親子

第一節 親子ノ分限ノ證據

第九十一條 婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子トス

婚姻ノ儀式ヨリ百八十日後又ハ夫ノ死亡若クハ離婚ヨリ三百日內ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

第九十二條 嫡出子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス

第九十三條 出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ親子ノ分限ハ嫡出子タル身分ノ占有ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得但第二百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十四條 身分ノ占有トハ夫婦ト其婚姻ニ因リテ生マレタリト主張スル者トノ間其者ノ出生ノ時ヨリ親子ノ分限ヲ證スルニ足ル可キ事實ノ湊合スルヲ謂フ其事實ノ著明ナルモノ左ノ如シ

第一 子ナリト主張スル者カ常ニ其父ナリトスル者ノ氏ヲ稱シタルコト

第二 子ナリト主張スル者カ常ニ其父母ナリトスル者ヨリ嫡出子ノ如ク取扱ハレ其養育、教育ヲ受ケタルトキ

第三 子ナリト主張スル者カ常ニ親族及ヒ世上ニ於テ嫡出子ト認メラレタルコト

第九十五條 庶子ハ父ノ届出ニ基ク出生證書ヲ以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十六條 父ノ知レサル子ハ私生子トス

第九十七條 私生子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十八條 私生子ハ父之ヲ認知スルニ因リテ庶子ト爲ル

第九十九條 庶子ノ出生届及ヒ認知ハ父自ラ身分取扱吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス未成年者ト雖モ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

第二節 否認訴權

第一百條 否認訴權ハ夫ノミニ屬ス但子ノ出生後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第一百一條 夫カ民事上ノ禁治産ヲ受ケタルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ否
認訴權ヲ行フコトヲ得

第一百二條 夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルトキハ出生ヨリ三箇月ノ期間内ニ限り否認訴權ヲ行フコト
ヲ得但夫カ婦ト住家ヲ異ニシ又ハ婦カ子ノ出生ヲ夫ニ隱秘シタルトキハ此期間ハ子ノ出生ヲ知
リタル日ヨリ起算ス

若シ夫カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ訴權ノ期間チ四箇月トシ子ノ出生ヲ知りタル日ヨリ起算ス

第三節 庶子及ヒ私生子ノ嫡出子ト爲ル權

第一百三條 庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲ル

私生子ハ父母ノ婚姻ノ後父ノ認知シタルニ因リテ嫡出子ト爲ル

第一百四條 死亡シタル子ト雖モ前條ノ規定ニ依リ嫡出子ト爲ル此場合ニ於テハ其效力ハ子ノ生
タル子ヲ利ス

第一百五條 父母ノ婚姻ノ時マテニ父子ノ分限確定シタル者ハ婚姻ノ日ヨリ又婚姻ノ後ニ確定シタ
ル者ハ確定ノ日ヨリ嫡出子ノ權利ヲ有ス

第七章 養子縁組

第一節 養子縁組ニ必要ナル條件

第一百六條 何人ト雖モ養子ト爲ル可キ者ヨリ年長ニシテ成年ナルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得
ス

遺言ヲ爲ス能力アル者ハ遺言養子ヲ爲スコトヲ得

第一百七條 家督相續ヲ爲ス可キ男子アル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第一百八條 後見人ハ管理ノ計算ヲ爲ササル前ニ被後見人チ養子ト爲スコトヲ得ス但遺言養子ト爲
スハ此限ニ在ラス

第一百九條 戸主ニ非サル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但推定家督相續人ニシテ戸主ノ許諾ヲ得タル
者ハ此限ニ在ラス

第一百十條 配偶者アル者ハ其配偶ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但配偶者カ其意
思ヲ表スル能ハサルトキハ此限ニ在ラス

配偶者アル者ハ其配偶者ト一致スルニ非サレハ養子ト爲ルコトヲ得ス

第一百一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

又推定家督相續人ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

然レトモ分家ヨリ本家チ承繼スル必要アルトキハ本條ノ規定ヲ適用セス

第二節 養子縁組ノ儀式

第一百十三條 養子縁組ハ當事者ノ承諾ニ因リテ成ル

此承諾ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ縁組ノ儀式ヲ行フニ因リテ成立ス

縁組ノ儀式ヲ行フニ付テハ第四十三條、第四十六條及ヒ第四十八條ノ規定ヲ適用ス

第一百十四條 當事者ハ身分取扱吏ニ縁組ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ

- 第一 養子ヲ爲ス者及ヒ養子ト爲ル者ノ出生證書又ハ之ニ代用スル保證書
- 第二 家督相續ヲ爲ス可キ男子ナキコトヲ證スル身分取扱吏ノ認定書又ハ推定家督相續人
除ノ證書

第三 配偶者ノ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第四 後見管理ノ計算ヲ爲シタル證明書

第五 縁組ニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第百十五條 滿十五年ニ至ラサル子ノ縁組ハ父母之ヲ承諾スルコトヲ得
父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母若シ其一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

第百十六條 滿十五年ニ至リタル者ハ父母ノ許諾ヲ受ケテ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ケ可シ若シ祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第百十七條 父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ二十年未滿ノ者ニ限り前二條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ後見人之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

第百十八條 私生子ノ養子縁組ニ付テハ母之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

父母ノ知レサル子ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百十九條 前數條ノ場合ニ於テ繼父又ハ繼母アルトキハ第三十八條第三項ノ規定ヲ適用ス

第百二十條 育児院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ二十年未滿ニ限り第百十五條及ヒ第百十六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

第百二十一條 婚養子縁組ニ付テハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ當事者ハ婚養子縁組ヲ爲スノ意思ヲ身分取扱吏ニ申出ツ可シ

此縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルトキハ身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ差止ムルコトヲ得

此縁組ハ婚姻ノ儀式ヲ行フニ因リテ成ル

第百二十二條 遺言養子縁組ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲ス

此遺言ハ養子ヲ爲ス者ノ死亡ノ日ニ家督相續ヲ爲ス可キ卑屬親アルトキハ其效ヲ失フ

第百二十三條 遺言養子ヲ爲ス者ノ死亡シタルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒテ縁組ノ受諾ヲ爲ス可シ

第百二十四條 縁組ノ儀式ヲ行ヒ又ハ縁組ノ受諾ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ十日内ニ身分取扱吏ニ届出ツ可シ但此届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條 第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ之ヲ縁組ニ適用ス但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第三節 養子縁組ノ證據

第百二十六條 縁組ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證ス但第百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五十四條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ適用ス

第四節 養子縁組ノ不成立及ヒ無效

第百二十七條 縁組ハ人違、裏心又ハ強暴ニ因リテ承諾ノ全ク欠缺シタルトキハ不成立トス

第百二十八條 縁組ハ本章第一節ニ定メタル條件ノ一ニ違背シタルトキハ無効トス

此無効ハ第百三十條ノ場合ヲ除ク外當事者其他現實ノ利益ヲ有スル者及ヒ檢事ヨリ何時ニテモ

之ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十九條 縁組ハ左ノ場合ニ於テ無効トス

第一 縁組ノ申出ヲ爲サス又ハ身分取扱吏ノ差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行ヒタルトキ

第二 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四 縁組ノ申出ヲ受ケタル身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

此無効ハ儀式後一箇年内ニ限り前條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 第八條又ハ第九條但書ノ規定ニ違ヒタル縁組ノ無効ハ被後見人又ハ養家ノ戶

主ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

被後見人カ成年ニ至リ又ハ戶主カ縁組ヲ知りタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキハ

其訴權ヲ失フ

第三百十一條 強暴ノ爲メ承諾ニ瑕疵アル縁組ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求スルコ

トヲ得但強暴ヲ免カレタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第三百十二條 第十六條乃至第二百十條ニ定メタル許諾ナクシテ爲シタル縁組ノ無効ハ許諾ヲ

與フ可キ者又ハ許諾ヲ受ク可キ者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十條第二項第六十一條及ヒ第六十二條ノ規定ハ此無効訴權ニ之ヲ適用ス

第三百十三條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ縁組又ハ婚姻ノ無効言渡ヲ原因トシテ婚姻又ハ縁組

ノ無効ヲ請求スルコトヲ得但無効言渡ノ後三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第五節 養子縁組ノ效力

第三百十四條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養家ニ於テ嫡出子ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第三百十五條 養子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其齎帶シ又ハ相続、贈與若

クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス但未成年中ノ財産管理ハ第九章ノ規定ニ從ヒ

テ養父母ニ屬ス

第六節 罰則

第三百十六條 縁組申出ノ時ニ必要ノ書證ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ二圓以上二十圓以下

ノ過料ニ處ス

縁組ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リテ其儀式ヲ行フヲ差止メサル身分

取扱吏ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 養子ノ離縁

第一節 協議ノ離縁

第三百十七條 養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ハ協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

然レトモ十五年未滿ニテ養子ト爲リタル者ノ離縁ハ滿十五年ニ至ラサル間ニ限り養子ヲ爲シタ

ル者ト縁組承諾ノ權ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百十八條 離縁ヲ爲サントスル養子ハ縁組許諾ノ爲メ定メタル規則ニ從ヒ其父母、祖父母又

ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三百十九條 當事者ハ離縁協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 縁組證書

第二 離縁ノ爲メニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離縁

第四百十條 離縁ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 養子ヨリ養家ノ尊屬親ニ對シ又ハ養家ノ尊屬親ヨリ養子ニ對スル暴虐、脅迫、遺棄又ハ重大ノ侮辱

第二 重罪ニ因レル處刑

第三 竊盜又ハ詐欺取財ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第四 浪費

第八十二條及ヒ第八十八條ノ規定ハ離縁ニ之ヲ適用ス

第四百十一條 離縁ヲ請求スル訴權ハ養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ノミニ屬ス

養子ヲ爲シタル者又ハ養子ト爲リタル者カ死亡シタルトキハ離縁ノ訴權ハ消滅ス但訴訟中ニ死亡シタル場合ニ於テハ現實ノ利益ヲ有スル者其訴訟ヲ續行スルコトヲ得

第四百十二條 養子ヲ爲シタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得

養子ト爲リタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ實家ノ父母、祖父母又ハ戸主ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十三條 養子ノ滿十五年ニ至ラサル間ハ縁組承諾ノ權ヲ有スル者ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十四條 養子カ養父母ト同居スルトキハ裁判所ハ離縁ノ訴訟中養子ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ養子ハ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得
裁判所ハ養子ノ請求ニ因リテ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 離縁ハ養子ノ家督相續後之ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 離縁ノ效力

第四百十六條 離縁ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第四百十七條 離縁ト爲リタル養子ハ自己ノ過失ノ有無ニ拘ハラズ其所有財産ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但養家ノ爲メニ消費シタルモノハ此限ニ在ラス

第四百十八條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離縁ヲ請求スルコトヲ得但離婚又ハ離縁ヨリ三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第九章 親權

第一節 子ノ身上ニ對スル權

第四百十九條 親權ハ父之ヲ行フ

父死亡シ又ハ親權ヲ行フ能ハサルトキハ母之ヲ行フ

父又ハ母其家ヲ去リタルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス

第四百二十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受クルニ非サレハ父母ノ住家又ハ其指定シタル住家ヲ去ルコトヲ得ス

子カ許可ヲ受ケスシテ其住家ヲ去リタルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ歸家セシムルコトヲ得

第四百二十一條 父又母ハ子ヲ懲戒スル權ヲ有ス但過度ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得ス

第五百五十二條 子ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ其子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

入場ノ日數ハ六箇月ヲ超過セサル期間内ニ於テ之ヲ定ム可シ但父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ更ニ其日數ヲ増減スルコトヲ得

右申請ニ付テハ總テ裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルコトヲ得ス

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キテ決定ヲ爲ス可シ父、母及ヒ子ハ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二節 子ノ財産ノ管理

第五百五十三條 父ハ未成年ナル子ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其財産ヲ管理ス

第五百五十四條 父ノ管理ニ於テハ第九十四條ニ記載シタル行爲ハ尙ホ之ヲ管理行爲ト看做ス

第五百五十五條 子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

第五百五十六條 父ハ管理ノ止ミタルトキハ子ニ其財産ヲ引渡ス可シ但收益ハ子ノ養育教育ノ費用及ヒ管理ノ費用ニ供シタルモノト看做ス

第五百五十七條 本節ノ規定ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニ之ヲ適用ス然レトモ母ハ管理ヲ辭スルコトヲ得

第三節 嫡母、繼父及ヒ繼母ニ特別ナル規則

第五百五十八條 嫡母、繼父又ハ繼母ノ親權ヲ行フ場合ニ於テハ相談人ヲ付スルコトヲ得

此相談人ハ配偶者證書若クハ遺言書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ親族會其議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五百五十九條 相談人ハ後見監督人ト同一ノ權限及ヒ義務ヲ有ス

第六十條 配偶者カ相談人ヲ定メサル場合ニ於テ親族會ヲ招集セサルトキ又ハ配偶者若クハ親族會ノ定メタル相談人ニ相談セサルトキハ區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ嫡母、繼父又ハ繼母ニ對シテ親權行使ノ禁止ヲ宣告スルコトヲ得

第十章 後見

總則

第六十一條 後見ハ未成年者ノ父又ハ母ニシテ生存スル者ノ死亡ニ因リテ開始ス

父母共ニ生存シ又ハ其一方ノ生存スルモ親權ヲ行フ能ハサルトキ又ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭スルトキモ亦同シ

第六十二條 一家ニ未成年者數人アルモ後見人ハ一人タル可シ

第六十三條 後見人ハ親族會ノ免除ヲ得サル限リハ後見ヲ承諾ス可シ若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ヲ怠ルトキハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ區裁判所ハ代務者ヲ命スルコトヲ得

後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲ負擔シ且其管理ニ付キ責ニ任ス

第一節 後見人

第六十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ於テ親族、姻族、又ハ他人ノ中ヨリ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有ス

第六十五條 後見人ノ指定ハ遺言書若クハ證書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ區裁判所ニ口述シテ之ヲ爲

ス可シ此口述ニ付テハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第百六十六條 父又ハ母カ後見人ヲ指定セサリシトキハ其家ノ祖父後見人ト爲ル但未成年ノ家族ニ付テハ成年ノ戸主後見人ト爲ル

第百六十七條 遺言後見人モ祖父若クハ戸主タル後見人モ有ラサルトキ又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ罷黜セラレ若クハ死亡シタルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第百六十八條 未成年者ヲ有スル人ノ死亡シタルトキ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻其他ノ事故ニ因リテ他家ニ入りタルトキハ區裁判所ハ未成年者ノ親族若クハ利害關係人ノ請求ニ因リ後見人ヲ設定スル爲メ親族會ヲ招集ス可シ

第二節 後見監督人

第百六十九條 後見ニハ一人ノ後見監督人ヲ付スルコトヲ得

後見監督人ハ後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ指定シ又ハ親族會ニ於テ之ヲ選定ス本章第四節及ヒ第五節ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ適用ス

第百七十條 後見監督人ヲ置カサル場合ニ於テ監督ヲ要スルコト有ルトキハ親族會ニ於テ會員一人ヲ選定シ臨時ニ後見監督人ノ任務ヲ行ハシム

第三節 親族會

第百七十一條 親族會ハ未成年者ノ最近親族三人以上ヲ以テ之ヲ設ク但親族三人ニ滿タサルトキハ未成年者ニ縁故アル者ヲ以テ之ヲ補足ス

本家及ヒ分家ノ戸主ハ親族會ニ列スルコトヲ得 第百七十二條 親族會ハ親族、後見人、後見監督人、保佐人又ハ利害關係人ノ求メニ因リテ集會

ス

第百七十三條 戸主成年ナルトキハ家族ノ爲メ親族會ヲ設クルコトヲ要セス

第百七十四條 養子ノ親族會ニハ實家ノ親族モ其會員タルコトヲ得

第百七十五條 會員ハ自己ノ利害ニ關係アル會議ニ列スルコトヲ得ス

第百七十六條 親族會ヲ設クル能ハサルトキハ區裁判所其事ヲ行フ

第百七十七條 未成年者ノ親族會ノ外親族會ヲ組成スル必要アルトキモ亦本節ノ規定ヲ適用ス

第四節 後見ノ免除

第百七十八條 左ニ掲クル者ハ當然後見人タルコトヲ免除セララル

第一 現役ニ服スル軍人、軍屬

第二 被後見人住居ノ市又ハ郡ノ外ニ於テ公務ニ從事スル人

第百七十九條 後見免除ノ求メハ親族會之ヲ決ス後見人解任ヲ求メタルトキモ亦同シ

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ罷黜

第百八十條 左ニ掲クル者ハ後見人タルコトヲ得ス又親族會員タルコトヲ得ス

第一 未成年者

第二 民事上禁治産者及ヒ准禁治産者

第三 未成年者ノ身分又ハ財産ニ對シテ訴訟ヲ爲ス人及ヒ其人ノ尊屬親、卑屬親、配偶者

第百八十一條 左ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ除斥セララル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ罷黜ス

第一 甚シキ不行跡ナル人

第二 後見管理ニ不能又ハ不正實ヲ顯ハセル後見人

第三 任務ヲ免黜セラレタル裁判上ノ保佐人

第四 公權剝奪公權停止及ヒ刑事上禁治産ヲ受ケタル人

第五 復權ヲ得サル破産者及ヒ家資分散者

第六節 後見人及ヒ親族會員ノ除斥又ハ罷黜ハ親族會ニ於テ之ヲ爲ス

第六節 後見人ノ管理

第百八十三條 後見人後見ノ開始ヲ知ルトキハ直チニ任務ニ就クコトヲ要ス

親族會ニ於テ後見人ヲ選定シ其後見人在席スルトキハ直チニ任務ニ就キ若シ在席セサルトキハ通知ヲ得タル日ヨリ任務ニ就クコトヲ要ス

第百八十四條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス

尊屬後見人及ヒ戸主後見人ヲ除ク外後見人若シ未成年者ノ在來ノ住居又ハ教育方法ヲ變更セントスルトキハ親族會ニ協議ス可シ

第百八十五條 後見人ハ父母ノ如ク未成年者ヲ懲戒スルコトヲ得

未成年者ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得タル上第百五十二條ノ規定ニ從ヒテ未成年者ニ對スル處分ヲ爲スコトヲ得

後見人カ其權ヲ濫用シ又ハ其義務ヲ怠ルトキハ未成年者及ヒ其親族ハ親族會ニ之ヲ申告スルコトヲ得

第百八十六條 後見人ハ未成年者ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ善良ナル管理者ノ如ク其財産ヲ管理シ管理ノ失當又ハ過失ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十七條 後見人ハ當然其任務ニ就ク可キ日ヨリ十日内ニ監督後見人ノ立會ヲ得テ未成年者ノ財産ヲ調査ス可シ

財産目錄ノ調製ハ二箇月内ニ之ヲ終了スルコトヲ要ス但親族會ハ狀況ニ從ヒテ延期ヲ許スコトヲ得

第百八十八條 後見人カ未成年者ノ債務者又ハ債權者ナルトキハ目錄ノ調製前其旨ヲ公證人又ハ親族會ニ明言スルコトヲ要ス

後見人カ債權ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セサリシトキハ其債權ヲ喪失ス又債務ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セサリシトキハ區裁判所ハ其後見人ヲ罷黜スルコトヲ得但罷黜ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第百八十九條 目錄調製ヲ終了セサル間ハ後見人ハ要急關ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第百九十條 後見人ハ任務執行ノ初ニ於テ親族會ニ協議シ未成年者ノ養育ノ需用、教育ノ程度ト其資産トニ從ヒ毎年費ス可キ金額及ヒ財産管理ニ係ル費用ヲ定ム

親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一入又ハ數人ノ管理者ヲ後見人ノ自己ノ責任ヲ以テ使用スルヲ許スコトヲ得

第百九十一條 後見人ハ未成年者ノ元本及ヒ收益ノ剩額ヲ每次ニ官ノ貯金預所又ハ確實ナル銀行ニ預ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ法律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ

後見人カ未成年者ノ財産ノ利用方法ヲ變更セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス第百九十二條 尊屬後見人及ヒ戸主後見人ヲ除ク外後見人ハ一箇年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會ニ報

管ス可シ

第百九十三條 後見人ハ未成年者ノ財産ニ付テハ管理ノ權チ有スルニ止マリ此權外ノ行爲ハ法律ニ定メタル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十四條 左ニ掲グル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第一 元本ヲ利用シ又ハ借財ヲ爲スコト

第二 不動産及ヒ重要ナル動産ヲ讓渡シ之ニ物權ヲ設定シ又ハ之ヲ取得スルコト

第三 動産、不動産ニ係ル訴訟又ハ和解、仲裁ニ關スルコト

第四 相續、遺贈若クハ贈與ヲ受諾シ又ハ拋棄スルコト

第五 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト

第六 財産編第百十九條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸貸ヲ爲スコト

第百九十五條 後見人ハ未成年者ノ財産ヲ讓受クルコトヲ得ス又未成年者ニ對スル權利ヲ讓受クルコトヲ得ス

第百九十六條 後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルニ非サレハ未成年者ノ不動産ヲ賃借スルコトヲ得ス
第百九十七條 後見人ノ其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者ヲ關束ス

第七節 後見監督人ノ任務

第百九十八條 後見監督人ハ後見人ノ管理ヲ監視スルコトニ任ス

後見監督人ハ後見人ヲ缺クトキト雖モ後見ノ任務ヲ行フコトヲ得ス此場合ニ於テハ直チニ後任ノ後見人ヲ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十九條 未成年者ト後見人トノ間ニ利益相反スルトキハ後見監督人ハ未成年者ヲ代表ス

第百一〇條 必要ナル場合ニ於テハ後見監督人ハ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第百一一條 法律上後見監督人ノ立會ヲ可キ行爲ニシテ其立會ナクシテ爲シタルモノハ無効トス

第八節 後見人ノ終了

第百一二條 後見ノ任務ハ後見人ノ一身ニ止マリ其相續人ニ移轉セス然レトモ相續人カ成年者ナルトキハ後任ノ後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續ス可シ

第百一三條 未成年者カ成年ニ達シ又ハ自治産ニ至ルニ因リテ後見ノ止ムトキハ後見人ハ其計算ヲ終了スルマテ管理ヲ繼續ス

第百一四條 假ニ管理ヲ爲ス者ハ必要ナル行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第九節 後見ノ計算

第百一五條 後見人ハ管理ノ終了スルトキハ其計算ヲ爲スコトヲ得

第百一六條 後見ノ決算ハ後見監督人ノ立會ニテ未成年者ノ成年ニ達シタル者又ハ其自治産ニ至リタル者ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ後見人ノ身上ニ係リテ終了スルトキハ決算ハ後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ許可ニ付ス但第百八條ノ場合ニ於テハ決算ハ後見監督人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ未成年者ノ死亡ニ因リテ終了スルトキハ決算ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲ス
後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第百一七條 後見ノ決算ハ管理終了ノ日ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ得但親族會ハ當事者ノ求メニ因リテ延期ヲ許スコトヲ得

第百一八條 後見人ト未成年者ト成年ニ達シタル者トノ合意ニシテ後見ノ決算前ニ爲シタルモノ

ハ總テ無効トク

第二百九條 後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルコトヲ證スルトキハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百十條 後見人ヨリ未成年者ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス
未成年者ヨリ後見人ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リテ利息ヲ生ス

第二百十一條 後見ノ計算ニ係ル未成年者ノ訴權ハ五箇年ノ時効ニ因リテ消滅ス後見人其他假ニ後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル訴權モ亦同シ

未成年者ト後見監督人又ハ親族會員トノ間ノ後見ニ係ル訴權ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ適用ス
此期間ハ未成年者ノ成年ニ達シ又ハ死亡シタル日ヨリ起算シ第二百八條ノ場合ニ於テ後見ノ計算ニ係ル訴權ニ付テハ合意無効ノ裁判言渡ノ日ヨリ起算ス

第二百十二條 後見監督人及假ニ後見管理ヲ爲シタル人ハ代理契約ノ原則ニ從ヒ過失ノ責ニ任ク
第十一章 自治産

第二百十三條 未成年者ハ婚姻ヲ爲スニ因リテ當然自治産ノ權ヲ得

第二百十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ滿十五年ニ達シタル未成年ノ子ニ自治産ヲ許スコトヲ得
此自治産ハ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十五條 後見ニ服スル未成年者ノ滿十七年ニ達シタルトキハ親族會ハ其未成年者ニ自治産ヲ許スコトヲ得
此自治産ハ後見人ヨリ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十六條 自治産ノ未成年者ハ之ヲ保佐ニ付ス

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ當然保佐人ト爲ル

親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ第百六十五條ノ規定ニ從ヒテ保佐人ヲ指定スルコトヲ得若シ之ヲ指定セザリシトキハ其家ノ祖父保佐人ト爲リ家族ニ付テハ成年ノ戶主保佐人ト爲ル
夫ハ當然未成年ノ婦ノ保佐人ト爲ル

此他ノ場合ニ於テハ親族會ニ於テ保佐人ヲ選定ス

第二百十七條 後見人ニ關シテ定メタル免除、缺格、除斥及ヒ罷黜ノ規則ハ之ヲ保佐人ニ適用ス

第二百十八條 自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ元本ヲ領收スルコトヲ得ス

第二百十九條 第百九十四條ニ掲ケタル行爲ニ付テハ自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十條 父母ヲ除ク外保佐人ハ後見人ト同シク過失ノ責ニ任ス

第二百二十一條 自治産ヲ許サレタル未成年者カ不行跡又ハ財産管理ノ失當ニ因リテ自治産者タルニ適セザルトキハ親族會ハ其自治産ヲ廢止スルコトヲ得

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ自治産ヲ廢止スルコトヲ得若シ此等ノ者アラザルトキハ親族會員又ハ保佐人ハ此廢止ヲ親族會ニ求ムルコトヲ得

未成年者ハ自治産廢止ノ日ヨリ親權又ハ後見ニ服シ成年ニ達スルマテ復タ自治産者ト爲ルコトヲ得ス

第十二章 禁治産

第一節 民事上禁治産

第二百二十二條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時時本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁スルコトヲ

得

第二百二十三條 禁治産ハ配偶者、四親等内ノ親族、戸主及ヒ檢事ヨリ之ヲ區裁判所ニ請求スルコトヲ得

禁治産ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ因リテ言渡シタル裁判ハ總テノ人ニ對シテ既判力ヲ有ス

第二百二十四條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

配偶者ハ當然相互ニ後見人ト爲ル若シ配偶者アラサルトキハ其家ノ父後見人ト爲リ父アラサルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ヘキ母後見人ト爲ル

父又ハ母ハ第六十五條ニ定メタル方式ニ從ヒテ後見人ヲ指定スルコトヲ得若シ指定セザリシトキハ第六十六條ノ規定ヲ適用ス

法律上ノ後見人モ遺言後見人モ有ラス又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ若クハ罷黜セラレタルトキハ第十章ニ定メタル方式ニ從ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第二百二十五條 配偶者、尊屬親、卑屬親及ヒ戸主ヲ除ケ外何人タリトモ十箇年以上禁治産者ノ後見ヲ擔任スルコトヲ要セス

第二百二十六條 未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治産者ノ後見ニ之ヲ適用ス

第二百二十七條 疾病ノ性質ト資産ノ狀況トニ從ヒテ禁治産者ヲ自宅ニ療養セシメ又ハ之ヲ病院ニ入ラシムルハ親族會ノ決議ニ依ル但瘋癲病院ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十八條 法律上ノ後見人ハ第九十二條ニ定メタル管理狀況ノ報告ヲ爲スコトヲ要セス

第二百二十九條 禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ資ニ供セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百三十條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判言渡ノ日ヨリ無能力者トス

裁判言渡後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

禁治産ノ裁判言渡前ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ニ對シテモ其行爲ノ當時ニ於テ衷心ノ明確ナルトキハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得

第二百三十一條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解除ノ裁判言渡後ニ非サレハ其權利ヲ回復スルコトヲ得ス

第二節 准禁治産

第二百三十二條 心神耗弱者、聾啞者、盲者及ヒ浪費者ハ准禁治産者ト爲シテ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得

准禁治産ノ言渡ハ配偶者、三親等内ノ親族及ヒ戸主ノ請求ニ因リ區裁判所之ヲ爲ス
保佐人ニ付テハ第二百二十四條及ヒ第二百五條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十三條 第二百十七條乃至第二百二十條ノ規定ハ之ヲ准禁治産ニ適用ス

裁判所ハ狀況ニ從ヒ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行爲ヲモ爲スコトヲ得サル旨ヲ言渡スコトヲ得

第二百三十四條 准禁治産者カ保佐人ノ立會ナクシテ爲シタル行爲ニ付テハ第二百三十條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十五條 准禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

第三節 刑事上禁治産

第二百三十六條 刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理スルコトヲ得ス又遺言ヲ以テスル外ハ其財産ヲ處分スルコトヲ得ス

第二百三十七條 刑事上禁治産者ニハ後見人ヲ付シテ其財産ヲ管理セシム此後見人ノ指定及ヒ管理ノ方法ニ付テハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル規定ヲ適用ス

第二百二十九條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第四節 瘋癲者ノ財産ノ假管理

第二百三十八條 禁治産ヲ受ケサル瘋癲者アルトキハ配偶者、親族、戸主及ヒ檢事ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ自宅ニ監置スルコトヲ得

第二百三十九條 瘋癲病院ニ入り又ハ自宅ニ監置セラレタル者ハ入院中又ハ監置中其財産ヲ管理シ及ヒ處分スルコトヲ得ス

第二百四十條 假管理人ハ瘋癲者ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セラレ但必要ナル行爲ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十一條 瘋癲者ノ入院中又ハ監置中ニ行爲ヲ爲シタル證據アルトキハ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得但相手方カ瘋癲者ノ本心ニテ行爲ヲ爲シタルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十二條 瘋癲者ノ無能力ハ區裁判所カ假管理ヲ解クニ因リテ止ム

第十三章 戸主及ヒ家族

第二百四十三條 戸主トハ一家ノ長ヲ謂ヒ家族トハ戸主ノ配偶者及ヒ其家ニ在ル親族、姻族ヲ謂フ

戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第二百四十四條 戸主ハ家族ニ對シテ養育及ヒ普通教育ノ費用ヲ負擔ス但家族カ自ラ其費用ヲ辨スルコトヲ得ルトキ又ハ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ他所ニ在ルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十五條 家族ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其齎帶シ又ハ遺産相続、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

然レトモ家族カ其家ノ爲メ消費シタル財産ニ付テハ戸主ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百四十六條 家族ハ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲サントスルトキハ年齢ニ拘ハラス戸主ノ許諾ヲ受ク可シ

第二百四十七條 他家ニ入りテ夫、婦又ハ養子ト爲リタル者ハ婚姻ノ無効、養子縁組ノ無効、離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テハ實家ニ復歸ス

然レトモ此者カ婚姻又ハ養子縁組ニ付キ實家戸主ノ許諾ヲ受ケサリシトキハ戸主ハ復歸ノ事由ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ身分取扱吏ニ申立テ復歸ヲ拒ムコトヲ得

第二百四十八條 他家ニ入りテ夫又ハ婦ト爲リタル者ハ其配偶者ノ死亡シタルトキト雖モ婚家ヨリ更ニ他ノ家ニ入ルコトヲ得ス

然レトモ婚家及ヒ實家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ復歸スルコトヲ得

第二百四十九條 實家ニ復歸ス可キ者又ハ復歸セントスル者カ復歸スル能ハサルトキハ一家ヲ新

立ス

第二百五十條 推定家督相續人ニ非サル家族タル男子カ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但分家ヨリ本家ヲ承繼シ其他正當ノ事由アルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ廢家スルコトヲ得

第二百五十二條 戸主カ國民分限ヲ喪失シタルトキハ廢家シタルモノトシ推定家督相續人ハ一家ヲ新立シ前戸主ノ家族ハ新戸主ノ家ニ入ル

第二百五十三條 戸主カ婚姻其他ノ原因ニ由リテ適法ニ廢家シ他家ニ入りタルトキハ其家族モ亦從テ其家ニ入ル

第二百五十四條 卑屬親チ有スル者カ婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ他家又ハ縁家ヲ去ルトキハ卑屬親ハ仍ホ其家ニ屬ス

第二百五十五條 父母ノ知レサル子ハ一家ヲ新立ス

第二百五十六條 他家ニ入りテ夫婦又ハ養子ト爲リタル者ハ配偶者又ハ養子チ爲シタル者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ買家ニ在ル卑屬親チ自家ニ引取ルコトヲ得

婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ買家又ハ縁家チ去リタル者ハ配偶者又ハ養子チ爲セシ者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ其家ニ在ル卑屬親チ自家ニ引取ルコトヲ得

第二百五十七條 戸主カ家族ニ對シテ婚姻其他ノ事件ニ付キ許諾ヲ與フ可キ場合ニ於テ未成年ナルトキ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人之チ代表ス

第二百五十八條 入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻申入夫ハ戸主チ代表シテ其權ヲ行フ

第二百五十九條 戸主失踪ノ宣言アリタル後其家督相續ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ノ權ヲ行フ

第二百六十條 單身戸主失踪ノ宣言アリテ其亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ三十箇年ニ至ルモ家督相續ノ占有者ナキトキハ絶家ス

第二百六十一條 戸主死亡シテ家督相續人ナキトキハ絶家シ其家族ハ一家ヲ新立ス

第十四章 住所

第二百六十二條 民法上ノ住所ハ本籍地ニ在ルモノトス

第二百六十三條 戸主ハ本籍ヲ移ス地ノ身分取扱更ニ申述シテ住所ヲ變更スルコトヲ得

未成年者又ハ民事上禁治產者タル戸主ノ住所ハ親族會ノ許可ヲ得テ後見人之チ變更スルコトヲ得

第二百六十四條 家族カ獨立シテ一家ヲ成ストキハ本籍ヲ定ムル地ノ身分取扱更ニ其意思ヲ申述シテ住所ヲ設定スルコトヲ得

一家新立ノ未成年者ニ付テハ後見人住所ヲ設定ス可シ

第二百六十五條 外國人始メテ日本ニ住所ヲ定ムルトキハ其意思竝ニ本國、氏名及ヒ出生年月日ヲ其地ノ身分取扱更ニ申述シ家族アルトキハ其氏名及ヒ出生年月日ヲモ申述ス可シ

第二百六十六條 本籍地カ生計ノ主要タル地ト異ナルトキハ主要地ヲ以テ住所ト爲ス

第二百六十七條 左ノ場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ニ代用ス

第一 住所ノ知レサルトキ

第二 日本ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關スルトキ
第二百六十八條 何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務ノ爲メニ假住所ヲ選定スルコトヲ得但此選定ハ書
面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五章 失踪

第一節 失踪ノ推定

第二百六十九條 住所及ヒ居所ヨリ亡失シ又ハ音信絶エテ生死分明ナラサル人ハ之ヲ失踪者ト推
定ス

此推定ノ裁判ハ本人ノ住所ノ區裁判所之ヲ爲ス

第二百七十條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置キタルトキハ其代理人ハ失踪ノ推
定中本人ノ財産ヲ管理ス但必要アルトキハ裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人、推定相續人又
ハ檢事ノ請求ニ因リテ代理人ノ解任ヲ言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得

第二百七十一條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置カサリシトキハ裁判所ハ前條ニ揭
ケタル者ノ請求ニ因リテ管理人ヲ指定ス

此管理人ニハ成ル可ク推定相續人ヲ指定スルコトヲ要ス

第二百七十二條 代理人又ハ管理人ハ管理行爲ヲ爲ス權限ノミヲ有ス他ノ行爲ニ付テハ必要ノ場
合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

代理人又ハ管理人ハ本人ノ利益ニ關係アル目錄調製、計算及ヒ清算ニ付テ本人ヲ代表ス

第二百七十三條 管理人ハ失踪者ノ動産及ヒ證書ノ目錄ヲ調製ス可シ又不動産ノ形狀ヲ確定セシ
ムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコ

トヲ要ス此等ノ手續ノ費用ハ本人ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求アルトキハ本條ノ規定ヲ代理人ニ適用スルコトヲ得

第二百七十四條 代理人又ハ管理人ハ推定相續人ヲ除ク外其請求ニ因リテ裁判所ノ定メタル給料
ヲ受ク裁判所ハ管理及ヒ財産返還ノ擔保トシテ保證人其他相當ノ擔保ヲ立テシムルコトヲ得

第二百七十五條 代理人又ハ管理人ハ失踪者ノ子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルニ
付テハ區裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二節 失踪ノ宣言

第二百七十六條 失踪者カ代理人ヲ定置カサリシトキハ五箇年又代理人ヲ定置キタルトキハ任期
ノ長短ヲ問ハス七箇年ニ至ルモ其生死ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル
權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ失踪者ノ住所ノ區裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 右請求ノ許スコキモノナルトキハ裁判所ハ失踪者ノ住所及ヒ其最後ノ居所ノ地
ニ於テ證人訊問ヲ爲スコキコトヲ命ス可シ此證人訊問ニ付テハ民事訴訟法ニ定メタル忌避ノ規
則ヲ適用セス

第二百七十八條 證人訊問ヲ命スル決定ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之
ヲ公示ス可シ

第二百七十九條 失踪宣言ノ裁判ハ證人訊問ヲ命シタル決定ヨリ一箇年ノ後ニ非サレハ之ヲ宣告
スルコトヲ得ス

此裁判ハ前條ノ手續ニ從ヒテ之ヲ公示ス可シ

第三節 失踪宣言ノ效力

第二百八十條 失踪宣言ノ裁判アリタルトキハ失踪者ノ遺言書ハ關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ之ヲ開封ス可シ

失踪者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推定相續人其他失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ直チニ其財産ヲ占有スルコトヲ得

第二百八十一條 失踪者ニ屬スル財産ノ占有ニ付テハ總テ相續ニ關スル規定ヲ適用ス此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シテハ財産ノ所有者トス

然レトモ占有者ハ推定相續人ヲ除ク外財産返還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ムル保證人其他ノ擔保ヲ立ツ可シ其保證人ノ義務又ハ擔保ハ十五箇年ノ後止ム

第二百八十二條 失踪者ノ現出シ又ハ音信アリタルトキハ失踪宣言ノ效力ハ即時ニ止ム失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ取回シ又占有者ノ處分ニ因リテ不當ニ利得シタルモノヲ取戻スコトヲ得

第二百八十三條 果實ニ付テハ失踪者カ其亡失又ハ最後音信ノ日ヨリ十箇年内ニ現出スルトキハ其五分ノ一ヲ取戻スコトヲ得十箇年後ハ其全部ヲ失フ

第二百八十四條 失踪者ノ相續順位ニ在ル者ハ他ノ者カ財産占有ヲ得タル日ヨリ三十箇年間其財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四節 失踪ノ推定及ヒ宣言ニ關スル通則

第二百八十五條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ權利ヲ請求スル者ハ其人カ權利ノ發生セシ日ニ生存シタルヲ證スルコトヲ要ス此舉證ヲ爲ササル間ハ其請求ヲ受理セス

第二百八十六條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ相續ハ次順位ノ者ニ屬ス失踪者ニ歸ス可キ財産ヲ相續スル者ハ財産目録ヲ調製ス可シ

第二百八十七條 前二條ノ規定ハ失踪者又ハ其相續人及ヒ承繼人ニ屬スル相續ノ時其他ノ權利ヲ行フヲ妨クルコト無シ此等ノ權利ハ普通ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五節 不在者ニ關スル規則

第二百八十八條 生存ノ確實ナル人カ住所ヲ去リテ其財産ヲ管理スル者アラサルトキ又ハ裁判所カ未タ失踪ヲ推定セサルモ本人ノ不在ノ爲メ其財産ノ放置セラルトキ又ハ失踪ノ推定中若クハ宣言後ニ失踪者ノ生存ノ確實ト爲リタルトキハ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ必要ノ保存處分ヲ命スルコトヲ得

第十六章 身分ニ關スル證書

第二百八十九條 出生、婚姻、養子縁組、死亡其他各人ノ身分ニ關スル事件ハ身分取改更ノ主管スル機關ニ之ヲ記載ス可シ

第二百九十條 帳簿ニ記載シタル證書ハ公正證書ノ證據力ヲ有ス但違法ノ記載ハ效力ナシ

第二百九十一條 帳簿ノ設備ナク若クハ中絶シタルトキ又ハ其全部若クハ一分ノ毀損シ亡滅シタルトキ又ハ其記載上甚シキ遺式、錯誤若クハ脱漏アリテ信用ヲ置ク可カラサルトキ又ハ身分取改更ノ詐欺若クハ過失ニ因リテ證書ヲ作ラサリントキハ證人又ハ私ノ書類ヲ以テ先ツ其實事ヲ證シ且身分上ノ事件ヲ證スルコトヲ得

第二百九十二條 證書ノ訂正ハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十三條 帳簿ノ調製、證書ノ記載、届出ノ手續其他ノ事項ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

民 法 範

利息制限法 (明治十年九月布告第六十六號)

利息制限法左之通相定候條此旨布告候事

- 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
- 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各制限ニマテ引直サシムヘシ
- 第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ不拘百分ノ六(六分)トス
- 第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス
- 第五條 返還期限ヲ違フトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

增價競賣法 (明治二十三年十月法律第九十二號)

除增價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ

命ス

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ增價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタルヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ

前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲ケル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許可ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ

否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ參加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期間ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知りタルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條 左ニ掲ケル者ヲ增價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一 競賣要求者

第二 債務者

第三 第三所持者

第四 抵當債權者

第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲ケル諸件ノ外增價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スルコトヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ適用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト言渡ス可シ

第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トチ問ハス競落代價ノ金額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルルコト無シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス

第十條 增價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ增價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

財產委棄法

(明治二十三年十月法律第九十四號)

朕財產委賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(此施行期限ハ民法延期ノ爲ニ延期セラレ)

第一條 無資力ナル債權者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ差押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマテハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對シ自己ノ財産ノ委賣ヲ其住所地ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債權者ハ總債權者ノ氏名及ヒ各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トテ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財産ノ委賣ハ協諾契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財産ノ委賣ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
此他財産ノ委賣ニ付テハ家資分散ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

辨濟提供規則 (明治二十三年十月勅令第二百十七號)

朕辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(此施行期日ハ民法延期ノ爲ニ延期セラレ)

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金額ナルトキハ其種

類員數ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ其定置物ナルトキハ其種類品數量ヲ記ス可シ

第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス

第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金二十錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受ケルモノトス

社寺學校病院等ヘノ寄附物處分 (明治九年四月第五十四號布告)

社寺學校病院等ヘ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトナシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

外國人ヘ家屋地所等貸與方 (明治七年八月第八十五號布告)

外國人ヘ家屋地所等貸渡ノ節約東上經忍疎漏ヨリ竟ニ内外人ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響候條自今學校其他ノタメ備入レ居留地外ヘ住居スヘキ外國人及公使館附屬書記官等ヘ貸家借地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳ヘ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事

但建物取毀賣拂ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳ヘ可届出等

無年期ノ貸附金穀裁判期限 (明治六年一月布告第十號)

金錢貸附證文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ツルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二箇月ノ内濟方可申付事

但從前今後共無年期貸附中内證屢返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸貸ハ不動産ニ屬スル儀ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

華族ノ輩貸借證文及其他ノ契約書ニ本人ノ名印ヲ用ヒシム (明治九年五月布告第七十六號)

華族ノ輩金錢貸借證文及ヒ其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ名印ヲ用フヘシ若シ本人ノ名印ナキモノハ其效無之儀ト可相心得此旨布告候事

婦女子一家相續ノ者ニ自印ヲ用シム

(明治六年五月布告第八十四號)

婦女子ニテ一家相續致候者ハ公私トモ他日證據ト爲スヘキ者ハ自印相用可申事

運借證書ノ分擔及償却方 (明治八年四月第六十三號布告)

金銀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ハ償却可申付候條此旨布告候事

但右證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明書アルハ此限ニアラス

金穀借用證書讓渡手續 (明治九年七月第九十九號布告)

金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之トモ仍ホ讓渡ノ效ナキモトス此旨布告候事
但相續人ハ讓渡候ハ此限ニアラス

賣買約定書認メ方ノ件 (明治八年五月第八十七號布告)

諸品賣買取引心得方定書去ル明治四年九月布告ニ及ヒ置候處自今相續シ候尤尙發賣買ノ約定ハ勿論其他諸取引ノ約定ヲ爲ス證書ニハ成ルヘキ丈ケ其約定ノ趣意ヲ明確ニ書載シ疎漏曖昧ノ事之レ

ナキ様注意可致此旨布告候事

諸證書ノ署名捺印方 (明治十年七月第五十號布告)

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ

但シ本文諸證書トハ契約ノ證書 (金穀地所建物貸借買賣讓與並預リ證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云フ)ニ限ルモノトス (明治十年第六十四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス) 右布告候事

金穀貸借請人證人辨償規則 (明治八年六月第百二號布告)

明治六年(六月)第百九十五號布告金穀貸借請人證人辨償規則本年十月一日ヨリ左ノ通改正候條同日以後借用證書ヘ加印候者ハ改正ノ通可相心得此旨布告候事 (明治八年第百二十一號布告ヲ以テ本項改正)

第一條 金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人證人ヘ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人證人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハハ借主並ニ請人證人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人證人ヘ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハハ請人證人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事
第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ雜形之通裁判所ニ於テ其原證文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事
(裏書並ニ雜形ハ略ス)

社寺ノ負債ハ氏子檀家ノ連署ヲ要ス

(明治十年五月第四十三號布告)

神社並寺院ニ於テ其ノ社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

華族ヨリ平民ニ至ル迄婚姻ヲ許ス (明治四年八月布告)

華族ヨリ平民ニ至ル迄五ニ婚姻被差許候條雙方願ニ不及ニ時時長工可届出候

但送籍方ノ儀ハ戶籍法第八則ヨリ第十一則迄ニ照準可致事

外國人民ト爲ス婚姻ニ就テノ條規 (明治六年三月布告第百三號)

自今外國人民ト婚姻差許左之通條規相定候條此旨可相心得事

- 一 日本人外國人ト婚姻セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ
- 一 外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復セシコトヲ願フ者ハ免許ヲ得能フ可シ
- 一 日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖トモ日本ノ不動產ヲ所有スルコトヲ許サス但シ日本ノ國法並ニ日本政府ニテ定タル規則ニ違背スルコトナクハ金銀動產ヲ持携スルハ妨ケナシトス
- 一 日本ノ女外國人ヲ婿養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ免許ヲ受クヘシ
- 一 外國人日本人ノ婿養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國ニ於テ日本人外國人ト婚姻セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府ヘ届出ヘシ

婦ハ離婚ノ訴ヲ起スヲ得 (明治六年五月第百六十二號布告)

夫婦ノ際已ムテ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖トモ夫之ヲ肯シセス之レカタメ數年ノ外ヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スルモノ不少候自今右ノ事件於有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所ヘ訴出不苦候事

華士族平民交互養子取組ノ件 (明治六年一月布告第二十七號)

自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事

(但華族ハ管轄廳ヨリ正院ヘ伺出士族ハ管轄廳ニテ聞届) 平民ハ戶長ヘ可届出專

華族ノ輩隱居及養子出願方 (明治三年閏十月布告)

- 一 華族ノ輩五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事
但癩疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス
- 一 實子無之輩ハ年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

士族ノ輩隱居及養子出願方 (明治三年閏十月布告)

- 一 士族之輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事但癩疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス
- 一 實子無之候ハハ年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事

右之通更ニ被仰出候條此段相違候事

私生ノ子 (明治六年一月布告第二十一號)

妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事但男子ヨリ
已レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戶長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

穢多非人等ヲ廢シ平民同様タルヘキ事 (明治四年八月布告)

穢多非人ノ稱被廢候條自今身分職業共平民同様タルヘキ事

登記法 (明治十九年八月法律第一號)

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與書入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定
際場ノ登記所ニ登記ヲ請フヘシ(明治二十年法律第一號ヲ以テ改正)
已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壞シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ

登記ノ變更又ハ取消ヲ請フヘシ(明治二十年法律第一號ヲ以テ追加)

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニハ
テ之ヲ爲スヘシ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與書入ノ登記ハ「始審裁判所長」之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ取扱フモノトス「治安裁判所」遠隔ノ地方ニ於テハ郡
區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ「始審裁判所長」ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲ササル地所建物船舶ノ賣買讓與書入ハ第三者ニ對シ法律上其效ナ
キモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與書入ニ付キ登記ス可キ概日左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、「地券面」ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、造作ノ有無

第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機及汽關ノ種類端船
其他必要ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要ノ所屬品

第五 登記ノ事由

第六 金額

第七 質入書入ハ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所
第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與實入書入ヲ爲ストキハ其事實
第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ實入ト爲シ實入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏ニ署名捺印ス可シ(明治二十三年第七十八號ヲ以テ追加)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書又ハ官廳ノ照會書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ條中改正)

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ第二項ヲ削リ更ニ本項ヲ加フ)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス(明治二十三年法律第一號ヲ以テ改正)

第十一條 登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請求スルコトヲ得(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ條中刪除)

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄「始審裁判所」ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニアラス(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應シ請求者ヨリ之ヲ疏明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

第十五條 家督相続ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フ時ハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相続スル者登記ヲ請フトキハ親屬二名以上又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ親屬ノ下ニ二名以上ノ四字ヲ加フ)

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札證書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ

場合ニモ亦之ヲ準用ス(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ隠匿若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リテ登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ質買讓與ニ因リ「地券」鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登記簿ノ證ヲ受ク可シ(明治二十年法律第一號ヲ以テ改正)

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項改正)

質借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重子テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記人ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二十五條 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ各項トモ消滅)

第二十六條 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ消滅)

第二十七條 (同上)

第二十八條 (同上)

第二項 (同上)

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ「登記料」ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ其官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

第二十九條 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ消滅)

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ消滅)

第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ「登記料」及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用悪水路溜池堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ『第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條』ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ビ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料一ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ誣謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及減刑再犯加重數雖俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續法同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 (明治二十二年法律第十三號ヲ以テ地券廢止ニ依リ本條消滅)

第四十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建屋船舶ニ付キ從來保存セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得 (明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス (明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

(明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ (明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ改正)

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ (明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

登記所ハ第二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ (明治二十三年法律第七十八號ヲ以テ追加)

商業及船舶ノ登記ニ關スル手数料

(明治二十三年七月勅令第三百三十三號)

朕商業及船舶ノ登記ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ
第一 商號、後見人、未成年者、婚姻契約及代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ各金三十

其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ
第二 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ消滅)

第三 登記簿ノ閲覧ニ付テハ金十錢
第四 登記簿ノ謄本ハ用紙一枚ニ付金十錢但空欄アルモノ又ハ一枚ニ滿サルモノト雖モ猶ホ之

ヲ一枚ニ計算ス(明治二十六年勅令第六十四號ヲ以テ但書以下改正)
第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ

商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金十五錢ヲ納ムヘシ
第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ(明治二十三年勅令第二百七號ヲ以テ追加)

登記事務費ハ國庫ノ支出トス (明治二十年六月勅令第二十四號)

朕登記事務費國庫支出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記法第三條ニ依リ郡區役所其他司法大臣ノ指定スル所ニ於テ取扱フ登記事務ノ費用ハ本年七月一日ヨリ國庫ノ支出トス

登記印紙規則 (明治二十一年十月勅令第六十六號)

朕登記印紙規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記印紙規則
第一條 明治十九年八月法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納付スヘシ

第二條 登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條 登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌クコトヲ得ス若シ其ノ賣捌所ノ外ニ於テ賣捌キタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ

登記印紙ヲ買取シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五條 前條ノ規則ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不問罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六條 本規則ハ明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

登記法取扱規則 (明治二十三年十月司法省令第七號)

本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルニ付明治十九年省令甲第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム

登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲ス可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出チ付ス可シ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得

第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題(登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之)及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ質入書入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ從前ノ例ニ依ル可シ

第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ

第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺シ且毎

葉ニ契印ス可シ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受クルモノハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳情書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出スヘシ

代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ

第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三號書式ニ準シ書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

第九條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ登記簿ノ表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ

出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ區令事件ノ記入ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願者クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シテ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

全時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分チ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲ササル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ

數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ賣買讓與スル若クハ差押等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ登記事由欄内ニ何何ノ物件ヲ賣買讓與スル若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ賣買又ハ書入申ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スルキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入賣買入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號(舊番號ヲ云フ)ノ物件ト連帶シテ書入若クハ賣買入トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其書入若クハ賣買入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ朱抹ス可シ

第十七條 買入書入ノ權ヲ賣買讓與シ(相繼ノ場合ヲ除ク)又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

買入書入ノ債主負債主ト協議ノ上賣買入書入トナシタル物件ヲ引取り所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙區取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十八條 買入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ賣買入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

商法第八百五十四條ノ裏書讓渡モ亦タ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財産ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財産タル旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明確ナラシメンカ爲メ登記出願ニ付何何ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權利移付者ノ欄ヲ朱

抹ス可シ

第二十一條 従前ノ公證簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴取セス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十一條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴取ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲナシタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス

地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞燒失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ
前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴取ス

登記法第四十一條ニ依リ土地臺帳所管區ヨリ變換ノ通知ヲ受タルトキモ亦表題部ノ物件ニ付テ訂正ヲ爲ス可シ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治二十三年勅令第二百十九號船籍規則第一條ニ依リ定メタル船籍港ヲ管轄スル登記所ヲ以テ定緊場ノ登記所トス

第二十五條 商法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ第十條ヲ適用ス

第二十六條 鹽札アル船舶ニ付始メテ登記ヲ請フモノハ其鹽札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限リニ在ラス

商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船籍證書其他商法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ス可シ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定緊場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入質入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ朱抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ拔書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ

前項ノ拔書ニハ現存セル所有權、書入質、差押其他ノ負擔ヲ摘載シ且轉出ノ旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其拔書ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ前項ノ例ニ準シ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一號第二號ノ規定ニ依リ變更及ヒ拔書ノ手数料ヲ徴收スルモノトス

第二十八條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方
之ニ署名捺印ス可シ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署スヘシ
地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス
第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件
ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編入ス可シ

第三十條 登記ノ爲差出シタル原證書ニハ登記簿ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及登記簿ノ
旨ヲ記載シ年月日ヲ附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ
前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記簿ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキ
ハ物件ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記簿ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ
第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿
中未タ登記ヲ爲ササル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番
號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何番何丁ニ綴ク旨ヲ記載スヘシ第三以下ノ綴ヲ設クルトキ
亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ

第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必ス壹貳
參拾ノ文字ヲ用フ可シ

登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄ス可カラズ若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印ス可シ

本條ノ規定ハ受付帳ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 帳簿及ヒ謄本拔書

第三十三條 登記簿及ヒ受付帳ノ外登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 登記見出帳
- 二 證書謄本綴込帳
- 三 謄本下付帳
- 四 登記簿下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳(裁判所又ハ行政廳ノ登記請求書ヲ綴込ミタルモノ)
- 七 登記願書綴込帳(登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ)
- 八 證明書綴込帳(登記法第四十條ノ證明書類ヲ綴込タルモノ)
- 九 名刺綴込帳
- 十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

前法ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出タル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條ニ從ヒ之ヲ保
存ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ十五噸以上及ヒ百五
十石以上ハ其船名ニ依リ其以下ノモノハ艦札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號
ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ下ニ記

載ス可シ

同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ

番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與賃入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物ニ子丑寅卯ノ符合ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ

前三項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ヲ請フ爲メ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差出シタル證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込ミ各箇ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊號及ヒ丁數ヲ記ス可シ其登記簿ニハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳簿何號ト記入スヘシ

甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

乙部謄本綴込帳ハ帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

謄本綴込簿ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ他テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ

登記ニ關スル帳簿ハ之ヲ保存スル爲メノ外登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十八條 登記簿ノ閲覧ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閲覧スルノ外吏員ノ面前ニ於テ

之ヲ閲覧セシムヘシ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルコトヲ得ス

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ

拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第四十一條 登記所ニ出頭セスシテ謄本又ハ拔書ヲ請フ者アルトキハ手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ之ヲ送付ス可シ

第四節 登記料手数料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納ス可シ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラス

第二章 特許意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許、意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準シ之ヲ爲スモノトハ

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許意匠及ヒ商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與讓與共有書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作り之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附 則

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シアル船舶ニ付商法第八百二十五條及ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條ニ規定シタル事項ヲ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ
(書式雛形ハ之ヲ略ス)

商業及船舶ノ登記廣告取扱規則 (明治二十三年十月司法省令第八號)

商法ノ規定ニ依リ商業及ヒ船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 商法第十八條ノ商業登記ニ付テハ各登記所ニ左ノ簿冊ヲ備フ可シ

第一 商號登記簿

第二 後見人登記簿

第三 未成年者登記簿

第四 婚姻契約登記簿

第五 代務登記簿

第六 合名會社登記簿

第七 合資會社登記簿

第八 株式會社登記簿

第二條 商法第八百二十五條第八百五十二條及ヒ第八百五十七條第二項ノ登記ハ商法及ヒ登記簿ノ規定ニ依リ船舶登記簿ニ之ヲ爲ス船舶登記簿ノ雛形ハ登記法ニ關スル省令ニ於テ之ヲ定ム

第三條 商業登記簿ハ附錄第二號乃至第九號ノ雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三條第四條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第四條 登記所ニ於テハ會社印鑑帳及ヒ登記見出帳ヲ調製シ印鑑帳ニハ商法第七十一條ニ依リ差出シタル印鑑ヲ貼付シ登記官吏之ニ契印シ見出帳ニハ商號ニ依リ登記ヲ區別シ以テ索引ノ便ニ供ス可シ

第五條 登記ノ届出ハ陳述書ヲ以テ之ヲ爲シ其陳述書ニハ登記ノ事項ヲ證スル爲メ必要ナル書牘ヲ添ヘ左ノ諸件ヲ記載シ當事者之ニ署名捺印ス可シ

第一 登記ヲ受ク可キ事項

第二 當事者ノ住所職業氏名

第三 年月日

第四 登記所ノ名

登記法第八條第二項及七明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第七條第二項ハ本令ニ由
之ヲ準用ス

第六條 登記ノ届出ハ登記官吏ニ於テ陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ之ヲ終リタルモノトス

登記法第八條第一項ノ受取證ヲ下付シタルトキハ陳述書ヲ受理シタルモノトス

第七條 登記官吏ニ於テ登記ノ届出ヲ不適當ト認ムルトキハ當事者ヲシテ改正セシム可シ之ヲ改
正シ得ヘカラサル場合又ハ改正セサル場合ニ於テ登記ヲ拒ムトキハ理由ヲ附シタル命令書ヲ發
ス可シ

第八條 登記ヲ受クル爲メ差出シタル書類ニシテ登記所ニ留置ク可キモノ殊ニ登記陳述書及ヒ商
法第六十八條ニ掲ケタルモノハ之ニ登記簿ノ冊號及ヒ其丁數ヲ記シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各箇
ニ綴込ミ之ヲ保存ス可シ

第九條 登記ハ雜形ニ示ス所ノ例ニ依リ相當欄内ニ之ヲ爲シ年月日ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印
ス可シ

凡テ豫備欄内ニハ商法第七十九條第百三十八條及ヒ第百六十九條ニ列舉シタル以外ノ事項ヲ登
記スルモノトス

會社ノ支店登記ノ豫備欄内ニハ合名會社ニ在テハ本店ノ業體商號、營業所ヲ登記シ合資會社及

ヒ株式會社ニ在テハ右ノ外會社資本ノ總額ヲ登記ス可シ

第十條 公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

公告ヲ爲ス可キ新聞紙ハ登記所所在地ニ於テ發行スルモノ若シ其地ニ於テ發行スルモノナキト
キハ登記所ヲ管轄スル區裁判所所在地ニ於テ發行スルモノタル可シ

若シ其地ニ於テ發行スル新聞紙ナキトキハ所轄地方裁判所管内ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ公
告ヲ爲シ又ハ區裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ公告ニ代ユ可シ(明治二十六年司法省令第七號及同
年同省令第十四號ヲ以テ改正)

登記所ノ新聞紙發行人ト一曆年ノ間商業登記ノ公告ヲ委託スル約定ヲ爲シ豫メ其旨ヲ公告シ置
ク可シ

第十一條 明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三十一條第三十二條ハ本令ニ之ヲ適用
ス

登記ノ變更ニ依リ削除ス可キ原登記ハ其側ニ朱線ヲ畫ス可シ

第十二條 商法第八百二十七條ノ船舶登記證書及ヒ同第八百五十四條ノ登記證書ハ附錄第十號及
ヒ第十一號ノ雜形ニ依リ之ヲ調製ス可シ

第十三條 登記簿ハ何人ト雖トモ之ヲ閱覽スルコトヲ得ルモノトス其閱覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之
ヲ爲サシム可シ

登記簿ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本ノ末尾ニ原登記ト相違スルコトナキ旨ヲ認證シ年月日ヲ
記シ登記官吏之ニ署名捺印シテ交付ス可シ

遠隔ノ地ヨリ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ亦之ヲ送付ス

可シ

第十四條 商業登記ニ關スル登記所ハ東京市ニ在テハ京橋區裁判所トス

第十五條 明治二十三年勅令第三百三十三號ニ定メルル商業及船舶ノ登記公告手数料ハ登記印紙ヲ

陳述書若シ陳述書アラサルトキハ明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第六條ニ依リ名

刺ニ貼付スヘシ

(書式雛形各之)

公證人規則 (明治十九年八月法律第二號)

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公證人規則

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ效ヲ有セス

第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スル方アルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ「治安裁判所」ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケル

ル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄「始審裁判所」ノ認可ヲ受ケ可シ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長「始審裁判所長」ノ監督ヲ受ケルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求アレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄「始審裁判所」ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作リ其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄「始審裁判所」及治安裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ效ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄「始審裁判所」ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及ヒ原本ノ用紙ハ某「始審裁判所」管内公證人役場ト刻シタル部紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義謬ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本ニ原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日日授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本籍ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スコカラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可ラス

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄「始審裁判所」ニ差入ルル事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代言人

ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ二百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪者クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐偽罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ總分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ「始審裁判所」ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄「始審裁判所」若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書「代官人」ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試驗及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り而識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス而識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り而識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲ケル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ學生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ條件ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齡

第五 證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其

證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通ノ易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾附萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ效ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ其「治安裁判所」管内某地住居ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ「代言人」ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス
第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ效ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連続ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連続スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金銀其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ效ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタルニ後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄「始審裁判所」ニ

出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ於テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾並ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連続ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之レニ違ヒタルトキハ其效ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキハ管轄「始審裁判所」ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ因リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラズ又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラズ之ヲ渡スト雖モ其效ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄「始審裁判所」ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得

ス之ヲ渡スト雖モ其效チ有セス

尋度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄「始審裁判所」ニ提出シ可シ
管轄「始審裁判所」ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可スヘキコトヲ命スル
コトアルヘシ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可
シ之ニ違ヒタルトキハ其效チ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同ノ一手續ニ依リ之ヲ作ル可シ
其效力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應ジ之ヲ渡ス可シ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及附託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記
シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄「始審裁判所」ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本
ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄「始審裁判所」ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ
受ケ可シ

第五十六條 見出帳ニハ日日取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ條
件ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合
又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄「始審裁判所」ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ
役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄「始審裁判
所」ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任
者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審裁判所」ノ官
吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審裁判所」ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提
要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄「始審裁判所」
ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ
停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内

ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄「始審裁判所」ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄「始審裁判所」ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ

附記ス可シ

兼任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行

ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先少證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料

ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎

ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキ

ハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外証印券紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第五章 懲罰

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ等ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラヌ管轄「始審裁判所」ニ訴フ可シ

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄「始審裁判所」ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マ

テ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ或聞セシコトヲ記入セス又ハ證書ヲ爲サザリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

- 第五十二條ニ違ヒタル時
- 第五十三條ニ違ヒタル時
- 第五十四條ニ違ヒタル時
- 第五十五條ニ違ヒタル時
- 第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
- 第六十一條ニ違ヒタル時
- 第六十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス
- 第七十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第七十五條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第七十八條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第七十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二條ニ違ヒタル時
- 第七條ニ違ヒタル時
- 第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第二十八條ニ違ヒタル時
- 第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

- 第三十三條ニ違ヒタル時
- 第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第三十六條ニ違ヒタル時
- 第三十七條ニ違ヒタル時
- 第三十八條ニ違ヒタル時
- 第三十九條ニ違ヒタル時
- 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
- 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第十五條ニ違ヒタル時
- 第十六條ニ違ヒタル時
- 第十七條ニ違ヒタル時
- 第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ效力ナキコトス
- 第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス
- 第二十條第一第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ
- 第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ此ヲ賠償ス可シ

公證人規則施行條例

(明治十九年八月司法省令甲第二號)

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通り之ヲ定ム
公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス但土地ノ情況ニ因リ五名以下ヲ増置スルコトアルヘシ

若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ「始審裁判所」ニ差出し接訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

「始審裁判所長」及接訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セザルトキハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス
第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲グ可シ
役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲ヌヲ要ス
書類ハ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示アリタルヨリ試驗期日一箇月前マテニ試驗ヲ行フ接訴院若クハ「始審裁判所」ニ差出ス可シ
試驗願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ與書ヲ受ク可シ

第六條 試驗ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試驗委員ハ筆記試驗ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ可シ
筆記試驗ニ合格セザル者ニ付テハ口述試驗ヲ行ハス

第八條 試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモノトス
試驗ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試驗委員ハ口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ
試驗ヲ行フタル接訴院若クハ「始審裁判所」試驗及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齡及口及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル「始審裁判所」若クハ接訴院ノ長ニ差出ス可シ

「始審裁判所」ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ接訴院ニ送致シ接訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人タラント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル書證ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ
試驗及第證書ヲ要セザル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願ヲ受タル「始審裁判所」ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ接訴院ニ送致シ接訴院長及檢事長モ亦意見ニ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出シタルトキハ控訴院長及檢察長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及「始審裁判所」ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及「始審裁判所」ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大阪 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口貳拾萬以上受持區 金四百圓

人口貳拾萬未満拾萬以上アル受持區 金三百圓

人口拾萬未満アル受持區 金二百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セス

第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄「始審裁判所」ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス
公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルトキハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルトキハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命スヘシ

公證人保證金ヲ補充スルマテ「始審裁判所」長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ「始審裁判所長」ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷タルトキハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄「始審裁判所」ハ控訴院ヲ經テ由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ「始審裁判所」及控訴院其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及「治罪法」ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ
(書式ハ之ヲ略ス)

登記法公證人規則ニ對スル抗告手續

(明治十九年十一月司法省令第三號)

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

第六條 始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期日内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

二

第六款	會社ノ解散	二一
第二節	合資會社	二一
第三節	株式會社	二三
第一款	總則	二五
第二款	會社ノ發起及設立	二五
第三款	會社ノ社名及株主名簿	二六
第四款	株式	二九
第五款	取締役及監査役	二九
第六款	株主總會	三〇
第七款	定款ノ變更	三二
第八款	株金ノ拂込	三三
第九款	會社ノ義務	三四
第十款	會社ノ検査	三五
第十一款	取締役及監査役ニ對スル訴訟	三六
第十二款	會社ノ解散	三六
第十三款	會社ノ清算	三七
第四節	罰則	三八
第五節	共算商業組合	四一
第七章	商事契約	四三
		四四

三

第一節	契約ノ種類	四四
第二節	契約ノ取結	四四
第三節	契約ノ履行	四六
第四節	價額賠償、損害賠償及割引	四八
第五節	違約金	五〇
第六節	代理	五二
第七節	時效	五二
第八節	交互計算	五三
第九節	質權	五四
第十節	留置權	五六
第十一節	指圖證券及無記名證券	五九
第八章	代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及運送人	五八
第一節	總則	六〇
第二節	代辦人	六〇
第三節	仲立人	六二
第四節	取引所仲立人	六二
第五節	仲買人	六七
第六節	運送取扱人	六八
第七節	運送人	七一
		七四

第八節	旅客運送	七七
第九章	賣買	七八
第一節	賣買契約	七八
第二節	供給契約	八三
第三節	競賣	八四
第四節	取戻權	八五
第十章	信用	八七
第一節	消費貸借	八七
第二節	信用約束	八九
第三節	寄託	九〇
第十一章	保險	九三
第一節	總則	九三
第二節	火災及地震災ノ保險	九九
第三節	土地ノ產物ノ保險	一〇一
第四節	運送保險	一〇一
第五節	生命險、病傷保險及年金保險	一〇三四
第六節	保險營業ノ公行	一〇五
第十二章	手形及小切手	一〇六
總 則		一〇六

第一節	爲替手形	一〇九
第一款	振出	一〇九
第二款	裏書	一一〇
第三款	引受	一一〇
第四款	榮譽引受	一一一
第五款	保證	一一三
第六款	支拂	一一四
第七款	榮譽支拂	一一四
第八款	償還請求	一一六
第九款	拒證書作成	一一七
第十款	戻爲替手形	一一九
第十一款	資金	一二一
第二節	約束手形	一二一
第三節	小切手	一二三
第二編	海商	一二三
第一章	船舶	一二五
第二章	船舶所有者	一二五
第一節	船舶所有權ノ取得及移轉	一二七
第二節	船舶所有者ノ權利及義務	一二七
第三節	船舶所有權ノ移轉	一二八

六 商 法 附 屬 法 目 次

第三章 船舶債權者	一二九
第四章 船長及海員	一三二
第一節 船長	一三二
第二節 海員	一三五
第五章 運送契約	一三七
第一節 船舶貸借契約	一三七
第二節 船荷證書	一三九
第三節 運送貨	一四一
第四節 旅客運送	一四三
第六章 海損	一四六
第七章 冒險貸借	一四九
第八章 保險	一五〇
第一節 保險契約ノ取結	一五〇
第二節 保險者及被保險者ノ權利義務	一五一
第三節 委棄	一五二
第九章 時效	一五四
第三編 破産	一五五
第一章 破産宣告	一五五
第二章 破産ノ效力	一五七

七 商 法 附 屬 法 目 次

第三章 別除債	一五九
第四章 保全處分	一六〇
第五章 財團ノ管理及ヒ換價	一六一
第六章 債權者	一六四
第一節 債權ノ届出及ヒ確定	一六四
第二節 特種ノ債權者	一六四
第三節 債權者集會	一六六
第七章 協諾契約	一六七
第八章 配當	一六八
第九章 有罪破産	一六九
第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果	一七〇
第十一章 支拂猶豫	一七一
商法施行條例	一七三
株式會社發起認可申請手續及諸報告ニ關スル件	一七五
私設鐵道株式會社ニ關スル件	一八一
株式會社債券發行ニ關スル件	一八二
株式會社債券發行ニ關スル細則	一八三
有罪破産處斷法	一八五
	一八七

商法及附屬法目次

商法

(明治二十三年三月法律第三十二號)

朕商法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(此施行期限ハ明治二十五年法律第八號ヲ以テ修正ノ爲メ明治二十九年十二月三十一日迄延期シ修正ヲ了レル分ハ同期限内ニテモ施行シ得ルコトヲ規定セシカ明治二十六年三月法律第九號ヲ以テ第一篇第六章第十二章及ヒ第三編ニ修正ヲ施シ其修正セル部分又同年七月一日ヨリ施行スルコト爲シ同時ニ第一篇第二章及ヒ第四章ノ規定ハ商會社ニ付テノミ施行スル旨定メ而シテ二十九年十二月法律第九十四號ヲ以テ其他ノ部分ハ明治三十一年六月三十日迄施行ヲ延期シタリ)

總則

第一條 商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス

第二條 特種ノ商事又ハ商人ノ爲メニ發布シタル法律、命令及ヒ規則ノ效力ハ本法ニ因リ妨ケラ

第一篇 商ノ通則

第一章 商事及ヒ商人

第三條 商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ商取引及ヒ其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フ

第四條 商取引トハ賣買、貸貸又ハ其他ノ取捌ノ方法ニ因リ產物、商品又ハ有價證券ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル旨趣ニテ直接又ハ間接ニ行フ所ノ總テノ權利行爲ヲ謂フ殊ニ

左ニ掲グルモノハ商取引ニ屬ス

- 第一 產物ノ交換、販賣ヲ目的トスル取引
 - 第二 製造、工業及ヒ手職業ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第三 人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第四 航漕ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第五 建築ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第六 銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第七 流通シ得ヘキ信用證券ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第八 商ノ爲メニ爲シ又ハ受クル倉庫寄託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第九 船舶ノ賣買、賃入、抵當、構造、修繕、機裝及ヒ乗組ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第十 取引所ノ取引
 - 第十一 保險ニ係ル作業及ヒ取引
- 第五條 其他左ニ掲グルモノハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第一 公ニ開キタル店舗、帳場者クハ其他ノ營業所ニ於テ又ハ公告ヲ爲シテ營ム兩替及ヒ利息若クハ其他ノ報酬ヲ受クル金錢貸付
 - 第二 新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ發行
 - 第三 商等ニ於ケル各般ノ代理及ヒ委任
 - 第四 公ナル周旋所及ヒ代辦ノ營業
 - 第五 公ナル共飲場及ヒ娯遊場ノ營業

第六條 受買作業ノ引受

- 第六條 商人其營業上ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對ノ證ナキトキハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第七條 左ニ掲グルモノハ之ヲ商取引ト看做サス
- 第一 所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル產物ヲ賣ルコト但營業ノ目的ヲ以テセサルモノニ限ル
 - 第二 戸戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス
 - 第三 専ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト
 - 第四 他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ揭ケサルトキニ限ル
- 第八條 不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約ハ商取引トセス但射利ヲ旨趣トスル買得及ヒ轉賣ハ此限ニ在ラス
- 第九條 商人トハ總テ商業ヲ營ム者ヲ謂ヒ商業ヲ營ムトハ常業トシテ商取引ヲ爲スコトヲ謂フ
- 農作、牧畜、養蠶、狩獵、捕漁及ヒ採蕨ノ業ヲ營ムハ商業ヲ營ムト看做サス
- 第十條 契約ニ因リ獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得ル各人ハ一時ノ商取引ナルト常時ノ商業ナルトナ間ハス總テ商ヲ爲スコトヲ得
- 獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得サル者ト雖モ其後見人ニ依リ亦商ヲ爲スコトヲ得但後見人ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ク可シ
- 第十一條 男女ナ間ハ未成年者ニシテ年齢十八歳ニ滿テ且父、母又ハ後見人ノ承諾ヲ得テ獨立

ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヲ爲スコトヲ得

右ノ未成年者自己ノ爲メ商ヲ爲サント欲スルトキハ前項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父、母又ハ
後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受ク可シ然ルトキハ其登記ノ日ヨ
リ商事ニ於テ總テノ權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス

第十二條 婦ハ其夫ノ明示又ハ黙示ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲スコトヲ得此承諾ハ其其婦カ夫ニ遺棄セ
ラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ之ヲ得ルコトヲ要セス
婦カ其夫ノ商業ヲ助ケルノミニテハ之ヲ商人ト看做サス

第十三條 商ヲ爲スコトヲ得ル婦ハ商事ニ於テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ

婦ハ商ノ債務ニ付テハ婦ノ財産ニ對シテ夫ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利アルニ拘ハラズ自己
ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但夫ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲ス場合ニ於テ夫婦間ニ財産共通ノ存スル
トキハ共通財産モ亦其責任ヲ負フ

第十四條 夫婦ノ一方カ商ヲ爲シ夫婦間ニ財産共通ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ解キタルトキハ商業
登記簿ニ登記ヲ受ケル爲メ其事實ヲ管轄裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス
夫婦ハ共ニ同一商事會社ノ無限責任社員タルコトヲ得ス

第十五條 法律上禁セラレタル總テノ商取引又ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサ
ル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無効タリ
公務ヲ帶フル者商業ヲ營ムコトヲ禁セラレタル場合ト雖モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ
無効ト爲ルコト無シ

第十六條 一方ノ者ノミニ對シテ商取引タル取引ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス但本法中商

人ノ身分ニ關スル規定及ヒ反對ノ意ヲ表シタル規定ハ此限ニ在ラス
第十七條 會社及ヒ其他ノ法人カ商業ヲ營ムトキハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スルコトヲ
要ス

第二章 商業登記簿

第十八條 商號、後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所
又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ
前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尙ホ存スル場合ニ限リ
移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受ク可シ

第十九條 登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告ス可シ其新
聞紙ハ第一曆年ノ間之ヲ定メ置クコトヲ要ス若シ其地ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其公告ノ方
法ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル又各人ニ營業登記簿ノ縦覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムル者ニハ認
シタル謄本ヲ請フコトヲ許ス

第二十條 登記及ヒ公告ヲ受ケル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム

クタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス

第二十一條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲ス
コトヲ得

登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二十二條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ己レノ過

失ニ非サルコトヲ證シ得ルニ非サレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レテ保護スルコトヲ得ス然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其效用ヲ致サシム但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム

第三章 商號

第二十三條 各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ス
第二十四條 商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ通例トスト雖モ營業者ノ氏又ハ氏名ヲ以テスルモ妨ナシ

第二十五條 商號ノ登記ヲ請ハントスル者ハ商業登記簿ニ登記ヲ受クルコトヲ得支店アルトキハ其支店ニ付テモ亦同シ
登記ヲ受ケタル商號ノ變更又ハ廢止ハ速ニ其登記ヲ受ケ可シ

第二十六條 商號ハ登記ニ因リ同一營業ニ付キ一地域内ニ於テ其專有ノ權利ヲ取得シ他人ノヲ用ユルコトヲ得ス但本法施行以前ヨリ有スル商號ハ從前ノ營業ヲ變セサルモノニ限リ一地域内ニ於テ同一ナルモ妨ナシ

第二十七條 相續ニ因リテ商業ヲ引受クル者又ハ契約ニ因リテ商業ト共ニ商號ヲ引受クル者ハ第七十五條ニ規定シタル場合ヲ除ク外從前ノ商號ヲ續用スルコトヲ得

第二十八條 商號ハ其營業ト共ニスルニ非サレハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス
營業ト商號トヲ併セテ讓渡ストキハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトヲ問ハス取引ノ仕務、債務、得意先及ヒ商業帳簿モ共ニ讓渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス

商號引受ノ通知又ハ公告ノ中ニ特約ヲ明揭セサルトキハ其特約ハ第三者ニ對シテ無効ナリ

第二十九條 營業ト商號トヲ併セテ讓渡ス者更ニ其營業ヲ爲ササル債務ヲ負擔シタルトキハ其義務ノ履行ハ爾後十箇年其間一地域内ニ限ル

第三十條 既ニ登記シタル他人ノ商號ヲ濫用シタル者又ハ第二十八條第二項及ヒ第二十九條ニ記載シタル義務ニ背ク者アルトキハ被害者ハ其加害所爲ノ停止及ヒ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第四章 商業帳簿

第三十一條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ殊ニ帳簿ニ日日其取扱ヒタル取引、他人トノ間ニ成立シタル自己ノ權利義務、受取リ又ハ引渡シタル商品、支拂ヒ又ハ受取リタル金額ヲ整齊且明瞭ニ記入シ又月月其家事業費用及ヒ商業費用ノ總額ヲ記入ス小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ問ハス逐一之ヲ記入スルコトヲ要セス日日ノ賣上總額ノミヲ記入ス

第三十二條 各商人ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年初ノ三箇月内ニ又合資會社及ヒ株式會社ハ開業ノ時及ヒ每事業年度ノ終ニ於テ動産、不動産ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ記入シテ署名スル責アリ

財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商品、債權及ヒ其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場價直ヲ附ス辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ扣除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸ス可キ債權ハ全ク之ヲ記載セス

第三十三條 每半箇年又ハ每半箇年内ニ利息又ハ配當金ヲ社員ニ分配スル會社ハ每半箇年ニ前條

記載ノ責ヲ盡ス可シ

第三十四條 各商人ハ十箇年間商業帳簿ヲ貯藏シ火災又ハ其他ノ意外ノ事變ニ因リテ喪失又ハ毀損セサルコトニ注意スル責アリ

第三十五條 商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有物ニシテ破産又ハ會社清算ノ場合ヲ除ク外官權ヲ以テ之ヲ交付セシムルコトヲ得ス

第三十六條 然レトモ相續ニ關スル事件、共通ニ關スル事件、分割ニ關スル事件及ヒ業務取扱ニ關スル争訟ニ付キ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令アルトキハ總テノ商業帳簿ヲ差出ササルコトヲ得ス

第三十七條 争訟申原告又ハ被告ノ申立アルトキハ受訴裁判所ハ相手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ命シ其所有者ノ面前ニ於テ右等争訟事件ニ關スル記入ノ檢閱又ハ時宜ニ因リテ其謄寫ヲ爲サシム若シ其帳簿カ他ノ地ニ在ルトキハ右裁判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ囑託シテ檢閱又ハ謄寫ヲ爲サシム

第三十八條 何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示ス可キ裁判所ノ命令ニ從ハサル者ハ之ヲ以テ證ス可キ争訟事件ニ付キ自己ノ不利ト爲ル推定ヲ受ク但其開示セサリシハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ證シ又ハ説明シ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三十九條 商業帳簿ノ記入ノ證據力ハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ判決ス然レトモ其記入ノミヲ以テ記入者ノ利益ト爲ル可キ十分ノ證ト爲スコトヲ得ス但相手方ニ於テモ亦其記入ヲ援用シタルトキ又ハ相手方商人ニシテ自己ノ帳簿ニ於ケル反對ノ記入ヲ以テ之ニ對抗シ能ハサルトキ又ハ相手方ニ於テ其不正ナルコトヲ少シニテモ信認セシメ得サルトキハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ援用シタル場合ニ於テ之ト連絡セル記入アルトキモ亦同シ

第四十條 原告被告雙方ノ商業帳簿ノ記入相牴觸シテ解明シ能ハサルトキニ於テモ亦裁判所ハ事情ヲ斟酌シテ其證據物ヲ全ク擲棄スルト否ト又ハ一方ノ帳簿ニ一層ノ信用ヲ置クト否トヲ判決ス

第四十一條 商業帳簿カ十分ノ證ト爲ラサル總テノ場合ニ於テハ裁判所カ事情ヲ斟酌シテ定ム可キ他ノ證據ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第五章 代務人及ヒ商業使用人

第四十二條 何人ニテモ商業ヲ營ム者ハ本店又ハ支店ニ明示ノ委任ヲ以テ一人又ハ數人ノ代務人ヲ置クコトヲ得但其委任ハ別ニ定式ヲ要セス

代務ノ委任及ヒ其解任ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ケ可シ

第四十三條 代務ハ何時ニテモ之ヲ解任シ又ハ代務人ヨリ之ヲ辭スルコトヲ得又其委任時期ノ滿了ニ因リ又ハ代務人ト取結ヒタル雇傭契約ノ絶止ニ因リ又ハ其委任ヲ爲シタル營業ノ讓渡若クハ廢止ニ因リテ自ラ消滅ス然レトモ商業主人ノ死亡ニ因リテハ消滅セス
代務人其委任ノ終リタル後ニ爲シタル取引ハ代務人其終リタルコトヲ知ラサルトキニ限り有效タリ

第四十四條 數人共同ニ委任ヲ受ケタル代務ハ總員共同ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス此代務ハ其一人ニ付テ消滅シタルトキハ他ノ各人ニ付テモ亦消滅ス

第四十五條 代務ノ委任ニハ商業主人ノ商號ヲ用井且之ニ代リ裁判上下裁判外トテ問ハス其商業ニ關スル總テノ商取引及ヒ權利行爲ヲ爲シ得ル權力ノ授與ヲ包含ス

代務權ニ制限ヲ立ツルモ其制限ハ第三者ニ對シテ無効タリ但第三者其制限アルコトヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第四十六條 代務ハ無期ニテモ又或ル時期ニ達シ若クハ或ル事件ノ生スルヲ限トシテモ又定期ニテモ之ヲ委任スルコトヲ得但解任及ヒ辭任ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケララルコト無シ

第四十七條 代務人ハ代務權ノ全部若クハ一分ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得ス但商業使用人ヲ置ク權アリ

第四十八條 商業主人ハ代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル取引及ヒ行爲ニ因リテ特リ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ但主人ノ之ヲ承諾シタルト否ト又ハ主人ノ名ヲ以テ爲シタルト否トヲ問フコト無シ又代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル不法ノ行爲又ハ代務人カ自己ノ名ヲ以テ取結ヒタル取引ト雖モ其時ノ情況及ヒ相手方ノ意思ニ因リ主人ノ計算ヲ以テ爲シタルトス可キモノニ付テハ亦同シ

第四十九條 何人ニテモ代務委任ヲ僞稱シ又ハ代務委任ヲ踰越シテ取引ヲ取結ヒタル者ハ相手方ニ對シテ其權ニ從ヒ取引履行又ハ損害賠償ノ責任ヲ自己ニ負フ其代務委任踰越ノ場合ニ於テ第四十五條第二項ニ從ヒテ商業主人其義務ヲ負フ可キトキハ主人モ亦之カ責ニ任セサルコトヲ得ス然レトモ此場合ニ於テハ主人又ハ代務人ノ中一方ノミニ對シテ其取引ノ效用ヲ致サシムルコトヲ得

相手方ニ於テ代務委任ノ欠缺ヲ知テ爲シタル取引ハ雙方ニ在テ無効タリ

第五十條 代務人ハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ商ヲ爲スコトヲ得ス若シ此成規ニ背キタルトキハ第六十三條ニ定メタル結果ノ外商業主人ノ求ニ從ヒ其商取引ヲ主人ノ算移ニ計

シ且損害アラハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五十一條 何人ニテモ商業上商業主人ノ業務ヲ辨センカ爲メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常其擔當職分ノ範圍内ニ屬ス可キ處テノ取引及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ十分ノ效力ヲ以テ爲スコトヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタルト否トヲ問ハス其取引及ヒ行爲ニ因リテ主人獨リ權利ヲ得義務ヲ負フ

使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲シ又ハ裁判所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ限ル

使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書添フルコトヲ要ス

第五十二條 商業使用人カ商業主人ノ爲メニ店舗、倉庫及ヒ其他ノ營業場ニ於テ或ル業務ヲ辨スルトキ又ハ他所ニ送遣セララルトキ又ハ帳場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ主人ヨリ制止セラレズ若クハ第三者ノ問ヲ受ケテ已レ之ヲ爲ス權アリト答ヘタルトキハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付キ置カレタルモノト看做サル

第五十三條 商業使用人ヲ商業主人ノ代人トシテ之ト取引ヲ爲シタル第三者カ善意ナルニ於テハ使用人其受ケタル委任ニ依ラサルモ又指定セラレタル方法ニ依ラサルモ其取引ハ第三者ニ對シテ有效タリ

第五十四條 商業主人カ商業使用人ヲシテ商慣習ニ定マレル職分ノ範圍ヲ擴メテ其代理ヲ爲サシメントスルトキハ此カ爲メ特別ノ委任ヲ爲シ且相當ノ方法ヲ以テ之ヲ第三者ニ告知スルコトヲ要ス殊ニ商業通信書又ハ手形及ヒ其他ノ債務證書ニ於ケル使用人ノ署名カ主人ヲ羈束ス可キト

キハ右ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五十五條 營業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以テ商業使用人ニ對シテ金錢ノ受渡ヲ爲シタルトキハ何レノ場合ヲ問ハス商業主人之ヲ承諾スル義務アリ商品、證券及ヒ其他ノ有價物ニ付テモ亦同シ

受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ持參スル者ハ拂金及ヒ其他書中記載ノ物ヲ受取ル權アルモノト看做サル但情況ニ因リテ右ニ異ナレル推定ヲ爲ス可キトキハ此限ニ在ラス

第五十六條 商業使用人ハ其職分上ノ權ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得ス又商業主人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ他人ヲ代理トシテ其權ノ全部若クハ一分ヲ行ハシムルコトヲ得ス但商慣習ニ於テ代理ヲ許スモノハ此限ニ在ラス

第五十七條 第四十五條第二項、第四十八條、第四十九條及ヒ第五十條ノ規定ハ商業使用人ニモ亦之ヲ適用ス

第五十八條 商業主人ト商業使用人トノ間ノ權利關係ニシテ其雇傭ニ關スルモノハ本法ニ規定シタルモノヲ除ク外雇傭契約ノ原則ニ從ヒ之ヲ定ム

第五十九條 期限ヲ定メスシテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方何時ニテモ之ヲ解ク豫告ヲ爲スコトヲ得但其豫告ハ一箇月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

商業主人若クハ商業使用人ノ終身ヲ期シ又ハ之ト同視ス可キ長キ期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ期限ヲ定メサルモノト看做ス

第六十條 期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方ノ承諾アルニ非サレハ其期間満了ノ前ニ之ヲ解クコトヲ得ス但法律ニ依リ其期限前ニ辭任又ハ解任ヲ爲シ得ヘキ場合ハ此限ニ在ラス

雇傭期限中ハ商業主人ニ於テ商業使用人ヲ全ク使役セス又ハ僅カニ使役スト雖モ使用人ハ契約上ノ給料又ハ各地慣習ノ給料ヲ受クル權利アリ

第六十一條 商業使用人カ雇傭期限中疾病ニ罹リ又ハ其他ノ事故ニ因リテ二箇月以上業務ニ就クニ耐ヘサルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六十二條 商業使用人カ就業中疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ被ムルモ商業主人ノ過失ニ因ラサルトキハ主人ヨリ治療費ヲ給シ又ハ價金ヲ與フル義務ナシ

第六十三條 商業使用人ヲ何時ニテモ解任シ得ヘキ場合左ノ如シ

- 第一 不實ノ行爲ヲ爲シ又ハ已レニ受ケタル信任ニ背キタルトキ
- 第二 自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ取引ヲ爲シタルトキ但些少ノ取引ハ此限ニ在ラス
- 第三 正當ノ理由ナクシテ其命セラレタル仕事ヲ爲スコト及ヒ總テ已レノ負擔シタル義務ヲ履行スルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リタルトキ
- 第四 不當ノ舉動又ハ不品行ノ爲メニ指斥ヲ受ケタルトキ

第六十四條 商業主人カ商業使用人ニ相當ノ給料ヲ與ヘス又ハ之ニ違法若クハ不善ノ業務ヲ命シ又ハ其身體ノ安全、健康若クハ名譽ヲ害シ若クハ害セントスル取扱ヲ爲ストキハ使用人ハ何時ニテモ辭任スルコトヲ得

若シ使用人獨立シテ營業ヲ始メントスルトキハ期限前ト雖モ第五十九條ニ掲ケタル豫告期間ニ從フニ於テハ亦辭任スルコトヲ得

第六十五條 雇傭契約ハ商業主人ノ死亡ニ因リテ終ラズ然レトモ商業使用人ノ雇入レラレタル其營業ノ廢止ニ因リテ終ル但其營業ヲ他人ニ移サントスルトキハ第五十九條ニ從ヒ雙方豫告ノ權

利ヲ有ス

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合

商事會社總則

第六十六條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニ之ヲ設立スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ背キ又ハ禁止セラレタル事業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効タリ

若シ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害ス可キトキハ裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ

職權ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 法律、命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ク可キ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ

非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

株式會社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル效

ナシ

第七十條 會社ハ社名ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設ケルコトヲ要ス

第七十一條 社員ニハ社名ヲ刻シ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存スル爲メ之ヲ第十八條ニ掲ケ

タル裁判所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス

第七十二條 社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ

得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七十三條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又ハ獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ又訴訟ニ付キ原告又ハ

被告ト爲ルコトヲ得

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金銀又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ

共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 社名ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用井之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ

會社若シ現在セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊社名ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ社名ヲ續用スルコトヲ得但退社員ノ氏ヲ社名中ニ

續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテノミ之ヲ設立スルコトヲ得其契約書ハ總社員之ニ連署ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ス可キ事項左ノ如シ

- 第一 合名會社ナルコト
- 第二 會社ノ目的
- 第三 會社ノ社名及ヒ營業所
- 第四 各社員ノ氏名、住所
- 第五 設立ノ年月日
- 第六 存立時間ヲ定メタルトキハ其時期
- 第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日内ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ事業ニ著手スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其事業ヲ差止ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六箇月内ニ事業ニ著手セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効タリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス其承諾ナキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其效用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル總社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ義務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保障スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應シテ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ検査シ且此事ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勤勉注意ヲ爲ス責務アリ其責務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目錄ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レサルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ハシムルトヲ擇ミ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其效ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一百條 社員カ會社ニ消投資ヲ爲シ又ハ會社ノ爲メニ立替金ヲ爲シタルトキハ會社契約ニ定メタル年利息ヲ求ムルコトヲ得又社員カ業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルコトヲ得

第一百二條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勸勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ得然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第一百三條 社員カ會社ノ爲メニ受取リタル金錢ヲ相當ノ時日內ニ會社ニ引渡サス又ハ會社ノ金錢ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第一百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商部ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ス之ニ背キタルトキハ會社ハ其擇ニ從ヒ社員ヲ除名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサルトキハ其出資ノ價額ニ準ス

出資ト爲シタル勞力ノ價額ヲ契約ニ於テ定メサルトキハ各股ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第一百六條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚シク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第一百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第一百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上下裁判外トテ間ハス之ヲ主張シ又有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第一百十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第一百一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其效ナシ

第一百二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ連帶ニテ之ヲ負擔ス

第一百三條 社員ニ非スシテ社名ニ其ノ民ヲ表スルコトヲ承諾シ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第一百四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セス

第一百五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第一百六條 會社財產ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ノ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミチ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得

然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス
第十八條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財産ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財産ヨリ得ヘキ辨償ヲ減損セラレ又支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二箇年內ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得
第五款 社員ノ退社

第二十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第二 死亡但會社契約又ハ總社員ノ承諾ニ依リ相續人其他ノ承繼人死亡者ノ地位ニ代ハル可キトキハ此限ニ在ラス

第三 破産又ハ家資分散

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第二十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日內ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未タ結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

第二十四條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金額ノミニテ之ヲ拂渡ス

勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第二十五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二箇年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ已レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立期ノ滿了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判

所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコト
ヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得
前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百二十八條 第百二十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニ
テ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタル
モノト看做ス

第百二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數
人ヲ任シ七日内ニ解散ノ理由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ク可シ

第百三十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ終了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産
ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得ス又清算人
ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條 清算人ノ權ハ社員ノ制限スルコトヲ得ス且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因
リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲ス
コトヲ得

第百三十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第百五條及ヒ第百二十四條
ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配ス
ルコトヲ得

第百三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ了スルニ要セサル會社財産ニ限ル

第百三十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處
分ス

第百三十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五箇年未滿ノ時効ノ定ナキト
キニ限り解散後五箇年ノ滿了ニ因リテ時効ニ屆ル但債權者カ未タ分配セラレサル會社財産ニ對
シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

第二節 合資會社

第百三十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有
價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

第百三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第百三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモノノ
外尙ホ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

- 第一 合資會社ナルコト
- 第二 會社資本ノ總額
- 第三 各會社ノ出資額
- 第四 無限責任社員アルトキハ其氏名
- 第五 業務擔當社員ノ氏名

第百三十九條 社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又社名
ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ

若シ社名ニ社員ノ氏ヲ用ヰタルトキハ其社員ハ此カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無限責任ヲ負

第四百十條 無限責任ノ社員、業務擔當社員ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ
 會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得
 第四百十一條 業務擔當社員ノ選任及ヒ解任ハ總社員四分三以上ノ多數決ニ依ル
 第四百十二條 業務擔當社員ハ會社契約ニ依リ一定ノ無限責任社員ノミヲ以テ之ニ充ツルコトヲ
 得

第四百十三條 業務擔當社員ハ裁判上ト裁判外トチ間ハス總テ會社ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スル
 專權ヲ有ス然レトモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラレ
 數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリヤ又ハ
 其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決
 議ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 業務擔當社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ
 對シテ其效ナシ

第四百十五條 有限責任社員ハ業務擔當社員ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得此場合
 ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義務ヲ襲承ス

第四百十六條 業務擔當社員ハ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負フ
 第四百十七條 前條ニ掲ケタル連帶無限ノ責任ハ業務擔當社員ノ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消
 滅ス

第四百十八條 業務擔當社員ハ毎年少ナクトモ一回通常總會ヲ召集シ其他業務擔當ノ任アル社員

又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ召集ス
 可シ

第四百十九條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及
 ヒ提出ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

第四百十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業並ニ其
 成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ検査及ヒ認定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第四百十一條 臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決
 ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退社スル權利アリ

第四百十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ社員出席セザルトキハ其總會ニ於テ假ニ決議
 ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ召集ス其通知ニハ若シ第
 二ノ總會ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ有效ト爲ス可
 キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第四百十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額力損失ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコト
 ヲ得ス

第三節 株式會社
 第一款 總則

第五十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテ會社財産ノミ責任ヲ負フモノヲ株式會社
 ト爲ス

第五百五十五條

從テ

株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在ラサルモ商事會社總則本節及ヒ次節ノ規定ニ得ス

第五百五十六條

株式會社ハ七八以上ヲ以テシ且政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ

得ス
第二款 會社ノ發起及ヒ設立
第五百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サレハ之ヲ發起スルコトヲ得ス
發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス
假定款ハ本法ノ規定ニ抵觸スルコトヲ得ス

第五百五十八條

目論見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 資本使用ノ概算

第六 發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第五百五十九條

發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ目論見書及ヒ假定款ヲ主務省ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス

第六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得

其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨トヲ附記ス

第六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス又其申込ハ署名捺印シタル陳述書ノ送附ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

第六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立スルニ至レハ假定款ニ從ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ

第六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ創業總會ヲ開ク可シ其總會ニ於テハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人ノ承諾ヲ經テ假定款ヲ確定ス

第六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又有價物ノ出費ヲ差入レテ株式ヲ受ク可キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選定ス

第六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其中請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一 目論見書及ヒ假定款

第二 株式申込簿

第三 發起ノ認可證

第六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ取締役ニ引渡ス可シ
 取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム
 第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後十四日內ニ目見論書、定款、株式申込簿及ヒ
 設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ
 登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

- 第一 株式會社ナルコト
- 第二 會社ノ目的
- 第三 會社ノ社名及ヒ營業所
- 第四 資本ノ總額株式ノ總數及ヒ一株ノ金額
- 第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額
- 第六 取締役ノ氏名、住所
- 第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
- 第八 設立免許ノ年月日
- 第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス
 第六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ受ク可シ

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後遲クトモ一箇年內ニ登記ヲ受ケサルトキハ其免許ハ效力ヲ
 失フ第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承諾ヲ得タル義務及ヒ出費ニ付キ發起人、取締役及ヒ
 株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任
 ヲ負フ

第三款 會社ノ社名及ヒ株主名簿

第七十三條 社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ
 第七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

- 第一 各株主ノ氏名、住所
- 第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額
- 第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡ノ年月日

第四款 株式

第七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分チタルモノニシテ二十圓ヲ下ルコトヲ得
 ス又其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額、發行ノ年月日、番號、社名、社印、
 取締役ノ氏名、印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス但定款ニ依リ數株ヲ合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトヲ得
 第七十七條 株式ハ分割又ハ併合スルコトヲ得ス

第七十八條 株金全額拂込以前ニ於テハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株
 券ヲ發行スルコトヲ得

第七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第八十條 登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ會社ニ對シテ其效ナシ

第八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ讓渡後二箇年間會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

第八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一箇月ヲ踰エサル期間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監査役

第八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル取締役ヲ三箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務取締役ヲ置クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取締役ト同一ナリ

第八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付テハ第四百四十三條及ヒ第四百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第八十七條 取締役ニ選マルル爲メ株主ノ所有ス可キ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ノ在任中ハ其株券ノ融通ヲ禁スル爲メ封印シテ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

第八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト及ヒ定款並ニ會社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付

キ會社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ

第八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ異ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取締役カ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルコトヲ得其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可シ

第九十一條 總會ハ株主中ニ於テ二人以上監査役ヲ二箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

第九十二條 監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行方法、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視スルコト

第二 計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書利息又ハ配當金ノ分配案ヲ検査シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト

第九十三條 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ招集スルコト
第九十四條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閱シ會社ノ金匣及ヒ其全財産ノ現況ヲ検査スル權利アリ

第九十五條 監査役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第九十六條 監査役ハ第九十二條ニ掲ケタル責務ヲ缺キタルニ因リテ生シタル損害ニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ

第九十六條 取締役又ハ監査役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キトキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ

以テ之ヲ定ム

第九十七條 取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレタル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六款 株主總會

第九十八條 總會ハ取締役、監査役又ハ其他本法ニ依リテ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第九十九條 總會ノ招集ハ會日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且定款ニ定メタル方法ニ從テ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

第一百條 通常總會ハ每年少ナクトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ其事業年度ノ算計書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス

取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス

第一百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又總株金ノ少ナクトモ五分一二當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ツルトキハ亦臨時總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

第一百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキノ外定款ノ定ニ從ヒテノ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクトモ四分一二當ル株主出席シ其決議權ノ過半數ニ依リテ決議ヲ爲ス

方法ニ依ル

第一百五十三條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第一百四條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通例トス然レトモ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルコトヲ得

第七款 定款ノ變更

第一百五條 會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會ノ決議ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ得然レトモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ背違スルコトヲ得ス

第一百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得但資本ハ其金額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス

會社ハ債券ヲ發行スルコトヲ得此債券ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス

第一百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日內ニ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第一百八條 前條ニ掲ケタル期限ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス

異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サレハ資本ヲ減スルコトヲ得ス

第一百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過意ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ申立テサル債權者ニ對シテ登記ノ日ヨリ二箇年間其受ケタル拂戻ノ額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ

第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ケ可シ登記前ニ在テハ其變更ノ效ヲ生セズ

營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受ケ可シ

又同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ケ可シ

第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八款 株金ノ拂込

第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲ササル爲メ株主ノ被フル可キ損失ヲ併示ス

第二百十三條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ定款ニ定メタル遅延利息及ヒ其遅延ノ爲メニ生シタル費用ヲ支拂フ義務アリ

第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクトモ十四日ノ期間ニ於テ拂込ム可キ催告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ其株主ニ通知シテ其株券ヲ公賣スルコトヲ得

第二百十五條 公賣セラレタル株券ノ從前所有者ハ公賣代金カ既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第二百十三條ニ記載シタル利息並ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剩餘アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還付ス

會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ定ムルコトヲ得

第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但債務ノ辨償ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ會社ニ交付セラレ若クハ移屬シタル株券ハ三箇月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム可シ

第二百十八條 會社ハ毎年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ作り監査役ノ検査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ要ス

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス

準備金カ資本ノ四分一二達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ二十分一ヲ準備金トシテ積置クコトヲ要ス

第二百二十條 前二條ノ制規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル金額ニ應シ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ爲ス

第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目論見書、定款、設立免許書、總會ノ決議書、每事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及

七 抵當若クハ不動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中株主及ヒ會社ノ債權者ノ其求ニ應シ展閱ヲ許ス義務アリ

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一回一箇月ヲ超エサル期間前條ニ定メタル展閱ヲ停止スルコトヲ得

第十款 會社ノ検査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ義務ノ實況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金匣、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ願未及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス

第二百二十七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一款 取締役及ヒ検査役ニ對スル訴訟

第二百二十八條 總會ハ検査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ検査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクトモ二十分一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締

役又ハ検査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用井又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

第十二款 會社ノ解散

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 定款ニ定メタル場合

第二 株主ノ任意ノ解散

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルコト

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ召集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後七日内ニ解散ノ原由、年月日及ヒ清算人ノ氏

名、住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百三十五條 裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監視スル權アリ

第二百三十六條 登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應ジ清算事務ヲ補助スル義務アリ

第二百三十七條 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ

第二百三十八條 取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ届出ヲ爲ササリシトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其金財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十九條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモノトス
第十三款 會社ノ清算

第二百四十條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及ヒ第三百三十一條ヲ適用ス

第二百四十一條 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコトヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スル責任ヲ負フ

第二百四十二條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ因リ總會又ハ時宜ニ從ヒテ裁判所ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監督シ又ハ清算人ニ參加セシムルコトヲ得

第二百四十三條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日內ニ會社帳簿ニ依リテ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナクトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直チニ之ヲ辨濟ス可ク又

債權者ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス

其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除外セラルル旨ヲ附記ス然レトモ清算人ハ期間ニ申出テサル債務者ト雖モ其知レル者ヲ清算ヨリ除外スルコトヲ得ス

第二百四十四條 清算人ハ其期間満了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルコトヲ得ス

第二百四十五條 期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務ヲ濟了シタル後未タ株主ニ分配セサル會社財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未タ全額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂込ヲ爲サシムル權利アリ

第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得又清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ申立ツルトキハ總會ヲ招集スル義務アリ

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ濟了シタル殘餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應ジ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス此分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ三箇月ノ満了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非サル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務ナシ

第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸

任ヲ求ム若シ總會ニ於テ卸任ヲ許ササルトキハ裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ニ因リ或ル株主ノ一己ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承諾及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三箇月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辦了ス

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノ有ルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得清算人ハ取戻方借方ノ此ノ如キ關係ナルコトヲ知リテ爲シタル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ付テハ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタルモノトス

第二百五十四條 總會ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル者ノ氏名、住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

第二百五十五條 清算ノ結果則チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ
第一 支拂ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト
第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ換済シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辦了シタルコト

第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト

第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其效力ヲ失ヒタルコト

其清算ノ結果ハ又清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル
料ニ處セラル

第一 本章ニ定メタル登記ヲ受ケルコトヲ怠リタルトキ

第二 登記簿ニ事業ニ著手シタルトキ

第二百五十七條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ召集又ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百五十六條ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ一分ヲ拂戻シタルトキ

第二 第二百五十七條ノ規定ニ反シ會社ノ爲メ其株券ヲ取得シ又ハ質ニ取り又ハ公賣セサルトキ

キ

第三 第二百十八條又ハ第二百十九條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂渡シタルトキ

第四 第二百二十五條ノ場合ニ於テ會社ノ金匣、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ノ検査ヲ

妨ケ又ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタルトキ

合資會社ノ業務擔當社員カ第五百十三條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ社員ニ拂渡シタルトキハ亦本條ニ定メタル罰則チ之ニ適用ス

第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十三條ニ定メタル公告チ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始チ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百六十條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十四條ノ規定ニ反シ債權者ニ支拂チ爲シ始メタルトキ

第二 第二百四十九條ノ規定ニ反シ株主ニ分配チ爲シタルトキ

第二百六十一條 前數條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令チ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即時抗告チ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員、取締役又ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二條 業務擔當ノ任アル社員、取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重キトキハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁錮ニ處セラル

第一 官廳又ハ總會ニ對シ書面若クハ口頭チ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ實況ニ付キ故意ニ不實ノ申立チ爲シ又ハ不正ノ意チ以テ其現況若クハ實況ヲ隱蔽シタルトキ

第二 公告ノ中ニ詐僞ノ陳述チ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰ニ處セラル

第二百六十三條 發起人カ株式申込ニ付キ詐僞ノ記載チ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處セラレ

罰金ニ處セラレ

第二百六十四條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處スルニハ刑事裁判上ノ手續チ以テス

第五節 共算商業組合

第二百六十五條 共算商業組合ノ契約ハ會社ニ關スル本法ノ規定ニ從フコトヲ要セス其契約ニ因リテ商事會社及ヒ會社財産ハ成立セス

第二百六十六條 二人以上共通ノ計算チ以テ一時ノ商取引又ハ作業チ爲スチ當座組合トシテ契約實行ノ爲メ其一ノ組合員若クハ總組合員ニ於テ又ハ共同代理人チ以テ爲シタル行爲ニ付テハ

第三者ニ對シテ各組合員直接ニ連帶ノ權利義務チ有ス

第二百六十七條 二人以上各自別箇ニ一時ノ商取引若クハ商業チ爲シ又ハ商業チ營ムト雖モ此ニ因リテ生スル損益チ共分スルコトヲ契約シタルモノチ共分組合トシ各組合員亦前條ニ掲ケタルト同シキ連帶ノ權利義務チ有ス然レトモ他ノ組合員ノ爲シタル行爲ヨリ生スル請求ニ對シテハ先訴ノ抗辯チ爲ス權利アリ

第二百六十八條 或人カ損益共分ノ契約チ以テ他人ノ商取引又ハ商業ニ出資チ供シテ之ヲ其者ノ所有ニ移シ商號ニ自己ヲ表示スル名稱ヲ顯ハサス又業務施行ニ與カラサルモノチ匿名組合トシ其營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シ出資未済ノ場合ニ於テ其出資ノ額ニ滿シルマテテ限リ義務チ負フ代務人又ハ商業使用人ト爲リテ用務チ辦スルハ業務施行ニ與カルモノト看做サス

第二百六十九條 匿名組合ノ損益共分ノ割合ハ明約アルニ非サレハ營業資本總額ニ對スル出資額ノ比例チ以テ之ヲ量定ス

第二百七十條 利益ハ損失ニ因リテ減シタル出資チ填補シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコト

ヲ得ス然レトモ匿名員ハ受取期限ニ至リテ未タ受取サル利益又ハ既ニ受取リタル利益ヲ以テ其後ニ生シタル損失ヲ補充スル義務ナシ

第二百七十一條 匿名組合ノ契約ハ其契約ニ於テ時期ヲ定メサリシトキハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得又其契約ハ營業者ノ破産家資分散若クハ死亡又ハ其營業ノ廢止ヲ以テ終ル

第二百七十二條 契約解除ノ場合ニ於テハ匿名員ノ負擔ニ歸ス可キ損失及ヒ債務ヲ引去リタル後其出資額ヲ之ニ拂戻スコトヲ要ス

第二百七十三條 匿名員ハ契約解除ノ場合及ヒ毎事業年度ノ終ニ於テ計算書ノ差出ヲ求メ及ヒ商業帳簿並ニ書類ヲ展閱調査セント求ムル權利アリ

此規定ハ第二百六十六條及ヒ第二百六十七條ニ掲ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七章 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二百七十四條 商事契約ハ明示又ハ默示ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十五條 商事契約ノ旨趣ハ當事者ノ眞實及ヒ確定ナル共通ノ意思ニ依リテ定マルモノトス其意思ハ商慣習ト商人タル者ノ當然ノ思考トニ從ヒテ解釋ス可シ

第二百七十六條 明示ノ契約ハ書面、口頭又ハ容態ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十七條 主タル目的物カ五十圓ノ價額ヲ超ユル契約ハ其履行ヲ即時ニ爲ササルトキハ之ヲ書面ニ作成シテ交付ス可シ

本法中或ル契約ニ關スル規定ハ前項ノ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第二百七十八條 書面作成ノ要件ハ合式ノ契約證書ヲ以テモ義務者又ハ其代人ノ署名若クハ之ニ代ハル可キ氏名アル書簡、電報、勘定書、切符其他ノ各書類ヲ以テモ之ヲ充タスコトヲ得

第二百七十九條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ノ旨趣ニ付テノ證據又ハ反對證據ハ書面ヲ以テスルモノニ限り之ヲ許ス但第二百七十五條ニ從ヒテ爲ス契約條款ノ解釋ニ關スルモノ又ハ錯誤、強暴若クハ詐欺ノ證明ニ關スルモノ又ハ羈束スル意思ナクシテ契約書ニ掲ケタル事實ニ關スルモノハ此限ニ在ラス

第二百八十條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ハ書面ニ作成セスト雖モ後ニ至リ當事者ニ於テ殊ニ雙務契約ノ場合ニ在テハ其雙方ニ於テ實際之ヲ履行シ又ハ書面ヲ以テ之ヲ承認シタルトキハ其效力アリ

第二百八十一條 默示ノ契約ハ契約提供ニ對シテ默示ノ承諾アル場合ニ存シ又事ヲ爲シ又ハ爲ササルニ因リテ法律上若クハ商慣習上義務又ハ請求權ノ生スル總テノ場合ニ存ス

第二百八十二條 契約提供ニ對スル默示ノ承諾ハ一般ニ商慣習若クハ誠實、信用ニ因リ殊ニ被提供者ノ特別ナル業體又ハ雙方間ノ平常ノ取引關係ニ因リテ承諾シタルモノト通例推定ス可キ場合ヲ除ク外ハ決シテ存スルモノト見做スコトヲ得ス

第二百八十三條 雙務ノ契約ニ在テハ相手方ノ履行ニ對スル承諾ハ其承諾シタル一方ニ於テモ履行ス可キ默示ノ約束ヲ爲シタルモノトス

第二百八十四條 契約上ノ義務ハ明示ト默示トヲ問ハス合法ノ原因アルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第二百八十五條 契約上ノ義務ヲ將來ノ事件ノ不確定ナル發生又ハ不發生ニ繫ラシムル場合ニ於

テハ契約ハ其事件ノ發生セサルトキ又ハ發生シタルトキハ當然消滅ス
第二百八十六條 契約ニ加ヘタル未必條件又ハ期限ハ此カ爲メ利益ヲ受ク可キ者ノ明示ノ拋棄ニ
因ルニ非サレハ無効ト爲スコトヲ得ス

第二百八十七條 商事契約ニ依リ二人以上共同シテ債權ヲ取得シ又ハ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ
ハ反對ヲ明示シタルニ非サレハ其債權ハ各債權者ヨリ又其債務ハ各債務者ニ對シテ連立且無條
件ニテ其效用ヲ致サシムルコトヲ得

第二百八十八條 前條ノ規定ハ保證義務ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス殊ニ一人ノ保證人ニ對スルニ
人以上ノ債權者ニ關シテモ一人ノ債務者ノ爲メニスル二人以上ノ保證人ニ關シテモ二人以上ノ
債務者中ノ一人ノ爲メニスル保證人ニ關シテモ適用ス

第二百八十九條 商事ニ於テ他人ニ對シ責ニ任スル注意ハ別段ノ規定又ハ契約アルニ非サレハ辨
識アリ且勉勵ナル商人カ履行地ノ慣例ニ從ヒテ爲ス可キ注意ナリトス

第二百九十條 不合法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ出テタル行爲ニ付テノ責任ハ豫メ契約ヲ以テ之
ヲ免カルコトヲ得ス

第二百九十一條 意外ノ事ニ因ル危險及ヒ至重ナル注意ハ本法ニ規定ナキモ明示ノ契約ヲ以テ之
ヲ引受クルコトヲ得

第二節 契約ノ取結

第二百九十二條 契約ハ一方ノ提供ヲ他ノ一方ニ於テ異議ナク承諾シタルトキ直チニ之ヲ取結ヒ
タルモノトス但默示ノ承諾ノ存セサルトキハ適當ノ方式ヲ以テ提供者ニ承諾ヲ述フルコトヲ要
ス

第二百九十三條 契約ノ提供ハ即時ニ又ハ被提供者ニ許與シタル期間ニ承諾ヲ述ヘサルトキハ之
ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第二百九十四條 提供ノ默示ノ承諾ヲ推定スルコトヲ得ル場合ニ於テハ被提供者カ即時又ハ許與
セラレタル期間ニ拒絕ヲ述ヘサルトキハ其提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百九十五條 地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ提供者ニ對スル承諾ノ陳述ハ遅クトモ提供ヲ受取
リタル翌日正午マテニ普通ノ送達方法ヲ以テ提供者ニ其陳述ヲ發シタルトキハ即時ニ之ヲ爲シ
タリト看做ス但其翌日カ一般ノ休日ナルトキハ更ニ其翌日ニ於テスルコトヲ得

第二百九十六條 契約提供ニ對シテ條件ヲ附シ又ハ變更ヲ加ヘテ爲ス承諾ニ在テハ提供者ハ其選
擇ヲ以テ之ヲ純粹ノ拒絕ト看做シ又ハ被提供者ヨリ更ニ爲シタル提供ト看做スコトヲ得

第二百九十七條 提供者ハ被提供者カ通常ノ情況ニ於テ即時又ハ期間ニ承諾ヲ述フルコトヲ得ル
時ニ至ルマテハ被提供者ニ對シテ其提供ニ羈束セラルルモノトス然レトモ提供ノ被提供者ニ達
スル以前又ハ達スルト同時ニ反對ノ通知ヲ以テ其提供ヲ取消スコトヲ得

第二百九十八條 契約提供ノ承諾ヲ述ヘタルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其承諾ヲ取
消スコトヲ得然レトモ地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ取消カ承諾陳述ノ達スル以前又ハ達スル
ト同時ニ提供者ニ達スルトキハ其取消ヲ有效トス

第二百九十九條 契約取結ニ關スル通信ヲ爲スニ當リ送達人ノ過誤及ヒ遲延ニ付キ送達人ニ其責
任ナキトキハ送達ノ爲メ利益ヲ受クル者其責ニ任ス

第三百條 見本、代價附其他契約提供ヲ媒介スル物ニシテ契約提供ト共ニ送付シ若クハ別ニ送
付スルモノハ其提供ノ拒絕セラルル場合ト雖モ被提供者ノ方ニ留マルヲ通例トス其他ノ商品ニ

在テハ被提供者ハ提供者カ更ニ處分ヲ爲スニ至ルマテ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ貯藏ス可シ然レトモ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間ニ其商品ヲ賣却シテ立替金及ヒ口錢ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百一一條 商事契約ハ強暴、詐欺又ハ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得然レトモ大ナル損失ニ因リ殊ニ代價其他ノ報償ノ不相當ナルニ因リテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三節 契約ノ履行

第三百二條 契約ノ履行ハ一方カ他ノ一方ノ同意ヲ得テ明示又ハ默示ニテ負ヒタル義務ヲ完全ニ辨濟スルニ在リ

第三百三條 債務者ノ義務ノ旨趣及ヒ範圍殊ニ債務ノ目的物ノ性質及ヒ品位ニ付テハ履行地ニ行ハルル定例ニ依リテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四條 十分ナル債務辨濟ヲ適當ノ方法ヲ以テ債權者ニ言込ムモ債權者其承諾ヲ拒絕スルトキハ債務者ハ其辨濟ス可キモノヲ債權者ノ計算及ヒ危險ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ債權者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百五條 債權者ハ一分ノ履行又ハ遲延シタル履行ヲ承諾スルコトヲ要セス但割拂ノ契約又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六條 契約ノ履行ハ契約上ノ満期日又ハ其他定マリタル満期日ニ之ヲ爲ササルトキハ遲延シタリトス

第三百七條 満期日ハ日ヲ指シテ之ヲ定メ又ハ期間ヲ設ケテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三百八條 期間ヲ定ムルニ日數ヲ以テシタルトキハ其期間ノ末日ヲ満期日ト看做シ週數、月數又ハ年數ヲ以テシタルトキハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ結約ノ日ニ應當スル日ヲ期日ト看做ス

第三百九條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ結約ノ日ハ之ヲ算入セス

第三百十條 半箇月ハ十五箇日ノ期間ト看做ス

第三百十一條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其翌日ヲ満期日ト看做ス

第三百十二條 特別ノ情況アルトキノ外ハ履行地ニ於ケル慣習上ノ取引時間ヲ以テ履行ニ付テノ一日ノ時間ト看做ス

第三百十三條 或ル期間ノ經過中ニ履行ヲ爲ス契約ナルトキハ其履行ハ期間内何レノ取引日ニテモ之ヲ爲シ又ハ之ヲ求ムルコトヲ得

第三百十四條 前條ノ場合ニ於テ疑ハシキトキハ期間ノ定ニ因リテ利益ヲ受ク可キ一方カ履行日ヲ擇ムコトヲ得通例此ノ如キ一方ト看做ス可キ者ハ商品ノ受取人又金錢ニ係ル債權ニ在テハ債務者トス

第三百十五條 期間ヲ延ヘタル場合ニ於テ別ニ定ムル所アルニ非サレハ其新期間ハ舊期間ノ満了ヨリ起算ス

第三百十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナクシテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲ササルトキハ債權者ハ満期日ヲ定ムルコトヲ得

第三百十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ推知スルコトヲ得サルトキハ履行ハ債權者若クハ受取ノ權利アル者ノ指定シタル地若シ指定セサルトキハ其住地殊ニ營業場ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務ハ債權者ノ指定シタル運送場若シ指定セサルトキハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ履行シタルモノトス

第三百十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ債務者カ債務ノ目的物ヲ送付ス可キヤ又ハ債權者カ之ヲ取寄ス可キヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質ニ依リテ之ヲ定ム

第三百二十條 別段ノ契約ナキトキハ債務ノ目的物ノ送付ハ債權者ノ危險ニ於テ之ヲ爲スヲ通

例トス但債務者カ自己又ハ其使用人ノ過失ニ付テ責任ハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第三百二十一條 度量衡、距離、期間、休日、支拂貨幣ノ本位並ニ種類其他履行ノ細目ハ履行地ニ行

ハルル定例ニ從ヒテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十二條 擇一債務其他目的物ノ特定セサル債務ニ付キ履行ノ目的物ヲ定ムルコトハ其目的物ノ尙ホ存スル場合ニ限り疑ハシキトキハ債務者ノ擇ムニ任ス

第四節 價額賠償、損害賠償及ヒ割引

第三百二十三條 債務者カ其債務ノ履行ヲ正當期日ニ爲ササルトキハ債權者ハ契約ヲ解除シ又ハ

價額賠償若クハ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 價額賠償ハ金錢ニ係ル債務ニ付テハ債務額ノ外滿期日ヨリ其債務ヲ辨済スル日

マテノ遲延利息ヲ支拂フニ在リ總テ其他ノ債務ニ付テハ債務ノ目的物カ滿期日ノ後ニ有セシ最

高ノ價額ト其價額ヲ定メタル時ヨリ辨済ノ日マテノ遲延利息トシ支拂フニ在リ但債權者ニ於テ

債務ノ目的物カ滿期日ニ有セシ價額ト此日ヨリノ遲延利息ノ賠償トヲ得ント欲スルトキハ此限

ニ在ラス

第三百二十五條 債權者ハ債務者ノ過失ヲ證明シ又ハ債務ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ證明スルコト無クシテ價額賠償ヲ求ムルコトヲ得但義務ノ性質及ヒ範圍ニ因リテ債務者カ

不履行ニ付キ責任ヲ負フトキニ限ル

第三百二十六條 第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ査定ス可キ債務ノ目的物ノ價額ハ其普通ノ市場

價額又取引所ニ於テ賣買スル物ニ在テハ其取引所相場ニ加フルニ遲延ニ因リテ生シタル費用及

ヒ立替金ヲ以テシタルモノトス

第三百二十七條 第三百四條ニ掲ケタル承諾ヲ遲延シタル債權者ハ亦遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ

第三百二十八條 故意又ハ怠慢ノ行爲ニ因リテ不適法ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損害ニ付キ十分ノ賠償ヲ爲ス義務アリ

第三百二十九條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ失ヒタル利益ノ辨償ヲ包括ス

第三百三十條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲ナカリシトキハ他ノ一方カ爲シ得ヘカリシコトヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見シ得ヘカリシモノト否ト又ハ通常ナリシモノト否トヲ問フ

コト無シ

第三百三十一條 損害賠償ヲ査定スルニハ偶然、推測若クハ將來ノ利益若クハ損失又ハ他ノ情況

ノ加ハルニ因リテ生スルコト有ル可キ利益若クハ損失ハ之ヲ問フコトヲ得ス

第三百三十二條 契約ヲ以テ豫メ價額賠償又ハ損害賠償ノ額ヲ定メタルトキハ之ニ從フヲ通例ト

シ實際ノ情況ヲ援用シテ其豫定ノ額ヲ増減セント主張スルコトヲ得ス

第三百三十三條 費用、立替金、前貸金其他此類ノ支出金ノ賠償及ヒ損害ノ賠償ヲ爲ス可キ者ハ

權利者ノ求ニ依リ其各金額ノ割合ニ應シテ辨償ス可キ日ヨリノ利息ヲ支拂フ可シ
第三百三十四條 遲延利息其他ノ利息ニシテ法律又ハ契約ニ於テ參合ヲ定メサルモノハ年百分ノ七トス

第三百三十五條 金錢ニ係ル債務ヲ滿期前ニ支拂フトキハ債務者ハ契約又ハ商慣習アルトキニ限リ其滿期前ノ時間ニ應シテ割引ヲ求ムルコトヲ得
第三百三十六條 契約不履行ニ因リテ債權者ヨリ契約ヲ解除スルトキハ債務者ハ既ニ爲シタル一分ノ辨濟ヲ現狀ニテ取戻シ既ニ受取リタル報償ヲ全額又ハ全價額ヲ以テ債務者ニ償還ス可シ

第五節 違約金

第三百三十七條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百三十八條 履行又ハ賠償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ廢止セラレスト雖モ疑ハシキトキハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス
第三百三十九條 過失アル不履行ニ因リテ債權者ニ加ヘタル損害力違約金ノ額ヲ超ユルトキハ違約金ノ外此超過額ニ付キ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百四十條 違約金ノ契約ニシテ差額取引又ハ不法ナル博奕者クハ賭事ノ取引ヲ隱蔽セントスル目的ヲ以テスルモノハ無効トス

第六節 代理

第三百四十一條 商取引ノ取結ノ爲メニスル委任ハ總テノ場合ニ於テ其取引取結ノ爲メニスル代

理ト看做ス但委任者カ代理人ノ行爲ニ承諾ヲ與フルコトヲ要スル旨ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ハ委任ヲ行フ際至重ノ注意ヲ爲ス義務アリ

第三百四十二條 委任者ノ名ヲ以テシタルト否トナ問ハス委任者ノ爲メニ代理人ノ取結ヒタル商取引ニ因リ委任者ハ直接ニ第三者ニ對シテ權利ヲ得義務ヲ負フ

第三百四十三條 委任又ハ事後ノ承諾ヲ受クルコト無クシテ第三者ノ爲メニ或人ト取引ヲ取結フ者ハ其人ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十四條 取引取結ノ際其委任ノ權限ヲ踰越スル者ハ第三者カ踰越ヲ知ラス又ハ知ルコト能ハサリシトキハ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十五條 代理人カ他人ノ爲メ商取引ヲ取結ヒタル場合ニ於テ相手方カ自己ノ過失ニ非スシテ代理ナルコトヲ知ラス又ハ委任者ヲ知ラサリシトキハ其相手方ハ委任者ノ不履行ニ因リテ被フリタル損害ニ付キ其代理人ニ對シテ賠償ヲ求ムル權利アリ

第三百四十六條 代理ハ委任者又ハ代理人ノ死亡ニ因リテ解除スルモノニ非ス

第三百四十七條 代理ハ委任者ノ承諾アリ又ハ其承諾ヲ得ヘキモノト推定ス可キ情況アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ轉付スルコトヲ得ス

第三百四十八條 他人ノ爲メニ其委任又ハ事後ノ承諾ヲ受ケテ商取引ヲ取結フ者ハ期約ナキトキト雖モ計算書ヲ示シテ其取引取結ニ付キ正當ニ爲シタル前貸金、立替金並ニ費用ヲ賠償セシメ及ヒ慣習上ノ利息、手数料又ハ口錢ヲ求ムル權利アリ

第七節 時 效

第三百四十九條 商事ニ於ケル債權ハ滿期日ヨリ若シ此期日ノ定ナキトキハ其債權ノ生シタル日ヨリ六箇年ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但法律上此ヨリ短キ時効期間ヲ規定シタルトキハ此限ニ在ラズ

第三百五十條 時効ハ履行ノ爲メ債務者ニ明示シテ爲シタル催告又ハ債權ノ取立若クハ擔保ノ爲メ債務者ニ對シテ爲シタル債權者ノ裁判上若クハ裁判外ノ行爲又ハ書面上ノ支拂約束又ハ主タル物若クハ從タル物ニ關シ債務者ノ爲シタル一分ノ支拂ニ因リテ中斷ス

第三百五十一條 受取證ヲ記シ又ハ記セサル計算書ノ送付ノミニテハ之ヲ催告ト看做スコトヲ得ス

第三百五十一條 満了シタル時効ノ效力ハ主タル物及ヒ從タル物ニ付テノ債權全ク消滅シ債權者ヨリ直接ニモ間接ニモ復々之ヲ主張スルコトヲ得サルニ在リ

第八節 交互計算

第三百五十三條 相互ノ間ニ絶エス債權及ヒ債務カ生スル所ノ平常ノ取引關係ヲ有スル者ハ期間ヲ定メテ交互ニ差引計算ヲ爲シ其債權及ヒ債務ヲ消却スルコトヲ得

第三百五十四條 交互計算ノ關係ハ明示又ハ默示ノ契約ニ因リテ生ス然レトモ長キ期間與信用ヲ繼續シタルモ此カ爲メニ交互計算ノ關係ヲ生スルコト無シ

第三百五十五條 差引計算ノ期間ハ一箇年トス但契約ヲ以テ此ヨリ短キ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

第三百五十六條 各當事者ハ毎期間ノ終ニ計算ヲ閉鎖シ且約定又ハ相當ノ期間ニ其計算書ヲ承認又ハ異議申述ノ爲メ交互ニ送付スル義務アリ

第三百五十七條 異議ヲ起サス又ハ異議ヲ起シタルモ留保ヲ爲サスシテ交互計算ノ關係ヲ繼續スルトキハ計算ヲ默認シタルモノト看做ス

第三百五十八條 交互計算ニ屬スル各債權ハ交互計算ノ關係ヲ解キ又ハ計算ニ對シテ異議ヲ述フルトキニ非サレハ各箇ニ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百五十九條 計算カ承認セラレタルトキハ其計算ニ依ルニ非サレハ差引殘額ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百六十條 毎期間ノ終ニ生スル差引殘額ハ之ヲ新ナル債務計目トシテ次ノ計算ニ移スコトヲ得但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 別段ノ契約又ハ慣習アラサルトキハ商事ヨリ生スル相互ノ債權及ヒ債務ハ種類ノ何タルヲ問ハス交互計算ヲ以テ取扱フコトヲ得

第三百六十二條 一方ニ於テノミ債權ヲ生シ他ノ一方ハ其債權ノ計算ノ爲メニ時時支拂ヲ爲シテ絶エス取引スル者ノ間ニ交互計算ノ關係ヲ生スルトキハ其計算ニ屬スル債權ハ期間ニ從ヒ且交互計算ノ全部ニ依ルニ非サレハ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百六十三條 交互計算ニ繰込ミタル債權ハ契約上ノ定ナキトキト雖モ其繰込ノ日ヨリ之ニ相當ノ利息ヲ付ス可シ

第三百六十四條 各計算期間ニ生スル差引殘額ニ付テハ期間ノ末日ヲ滿期日ト看做ス

第三百六十五條 交互計算ノ關係ハ其計算ニ繰込ミタル債權及ヒ債務ニ付テハ第三者ニ對シテ其效ヲ有セス

第三百六十六條 交互計算ノ關係ハ當事者ノ一方カ何時ニテモ之ヲ辭スル外死亡又ハ破産ニ因リ

ヲ解除ス

第九節 質權

第三百六十七條 商取引ヨリ生スル債權ノ擔保ノ爲メニスル動産質權ノ設定ハ總テノ場合ニ於テ

書面契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契約ハ擔保セラル可キ債權ノ年月日、數量竝ニ其合法ノ原因及

ヒ質權設定ノ年月日竝ニ目的物ヲ逐一記載セサルトキハ無効トス

第三百六十八條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物ヲ賣却シテ其債權ノ辨償ニ充ツル權利ヲ取得ス但

質物ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移リタルトキニ限ル

第三百六十九條 船荷證書、倉荷證書其他裏書ヲ以テ所載商品ノ處分權ヲ移轉スルコトヲ得ル證

券ノ裏書讓渡ハ物ノ占有ノ移轉ト同一ナリトス

第三百七十條 指圖證券カ質權設定ノ目的物ナルトキハ其證券ニ質入ノ旨ヲ附記シテ債權者ニ

裏書讓渡ス可シ

第三百七十一條 債務者カ其債務ノ辨濟ヲ遲延シタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ訴ヲ起スコト

無クシテ質契約書ヲ差出シ裁判所ノ命令ヲ得タル後質物ノ賣却ニ著手スルコトヲ得

此命令ハ債權者ヨリ遲延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十二條 債務者カ契約書ヲ以テ賣却ノ承諾ヲ明示シタルトキ又ハ指圖證券ヲ質入シタル

トキハ債權者ハ裁判所ノ命令ナクシテ賣却ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 前二條ノ場合ニ於ケル賣却ハ仲立人又ハ競賣人カ競賣ヲ以テ之ヲ爲シ又取引所

ニ於テ賣買スル商品ニ在テハ取引所ニ於テ公ノ呼上ヲ以テ之ヲ爲シ且賣却期日ノ少ナクトモ八

日前ニ其爲サントスル賣却ヲ債務者ニ通知ス可シ

第三百七十四條 前條ニ掲ケタル期間ノ満了スルマテハ債務者ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シテ質物ノ還

付ヲ求ムル權利アリ

第三百七十五條 債務額ニ利息及ヒ必要ノ費用竝ニ立替金ヲ加ヘタル額ヲ超ユル賣却代價ノ過剩

ハ賣却ノ諸費用ヲ引去リタル後之ヲ債務者ニ還付ス可シ

第三百七十六條 債務者ハ質權ノ設定ニ因リテ質物ヲ他ニ讓渡ス權利ヲ失フコト無シ然トモ質債

務ノ全額ニ滿ツルマテ其代價ヲ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 買主ニシテ其買入レタル物ニ付キ第三者ニ質權ノ存スルコトヲ知ル者ハ質債務

ノ全額ニ滿ツルマテ其代價ヲ直接ニ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ亦前條ノ刑ニ處ス

第三百七十八條 同一ノ物ニ付キ質權者二人以上ニ設定シタルトキハ其物ノ占有者カ賣却ノ優先

權ヲ有ス但強暴若クハ隱密ニテ又ハ隨時返還ノ條件ヲ以テ其占有ヲ得タルトキハ此限ニ在ラ

第三百七十九條 二人以上ノ質債權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證券ヲ

有スルトキハ孰レニテモ其占有ヲ先キニ得タル者賣却ノ優先權ヲ有ス

第三百八十條 動産ニ付テノ有效ナル質權ハ質債權者ノ善意ナルトキニ限り所有者ニ於テ又ハ

物ヲ處分スル爲メ所有者ヨリ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取得ニ因リ物ノ占有ヲ得

タル各人ニ於テ之ヲ設定スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外其物カ盜品又ハ紛失品ナルトキハ

此限ニ在ラス

第三百八十一條 所有者ニ非サル者ノ質入シタル物ハ賣却執行ノ終ニ至ルマテハ所有者ヨリ質債

權者ニ十分ナル辨償ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十二條 有效ニ質入シタル物ヲ賣却シ其代價ノ支拂アリタルトキハ從來其物ニ付キ存セ

ル所有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十三條 質權ハ第三者ニ於テモ債務者ノ爲メ之ヲ設定スルコトヲ得

第三百八十四條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ豫メ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第三百八十五條 質物賣却ノ裁判上ノ停止ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シタリトノ抗辯ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得但シ其抗辯ヲ直チニ信認セシメ得ルトキニ限ル

第三百八十六條 指圖證券又ハ無記名證券ニ因リテ生シタル債權ヲ質入スルニハ債務者ニ通知ヲ爲スコトヲ要セス

質債權者ハ質ニ取りタル債權ヲ賣却ニ代ヘテ直接ニ取立ツルコトヲ得又金錢ニ係ル債權ニ非サルトキハ目的物ヲ質物トシテ取扱フコトヲ得

第十節 留置權

第三百八十七條 商取引ニ因リテ他人ノ物ヲ占有シ其物ニ付キ勞力、費用、前貸金、立替金、手数料又ハ利息ニ關シテ滿期ト爲リタル債權ヲ有スル者ハ其債權ノ完全ナル辨濟又ハ擔保ヲ得ルマテハ其物又ハ其賣得金ヲ留置スル權利アリ

第三百八十八條 交互計算ヨリ生スル差引殘額ニ付テノ債權ノ爲メ又ハ債務者支拂ヲ停止シタルトキハ未タ滿期ト爲ラサルモ商取引ヨリ生スル總テノ債權ノ爲メ債權者ハ正當ニ占有ヲ得タル債務者ノ總テノ物ニ對シテ留置權ヲ行フコトヲ得

第三百八十九條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但權利者カ自己ノ利益ノ爲メ其物ヲ處分シタルモ其留置權アルコトヲ新所持人ニ告知セシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十條 留置權ハ債權カ時效其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルカ爲メニ消滅スト雖モ物ノ

所有權カ債務者ノ意ヲ以テ又ハ意ナクシテ他人ニ移リタルカ爲メニハ消滅セス

第三百九十一條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三百九十二條 留置權ノ行使ヲ債務者ニ通知シタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保ヲ得サル者ハ留置シタル物ヲ第三百七十一條及ヒ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒテ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百九十三條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行ヲ求ムルコトヲ得ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ爲スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ留置スルコトヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

第三百九十四條 或ル金額又ハ商品ノ引渡ニ係ル書面契約ヨリ生スル債權ハ契約書カ其明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式ナルトキハ裏面ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第三百九十五條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書讓渡人ハ其證券ニ指圖式ニ非サル旨ヲ明記シテ裏書讓渡スヲ得サルモノト爲スコトヲ得

第三百九十六條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ年月日ヲ記シ發行人又ハ裏書讓渡人之ニ署名捺印ス可シ

第三百九十七條 發行又ハ裏書讓渡ノ緣由タル契約ノ合法ノ原因ハ之ヲ證券ニ掲クルコトヲ要セス但第三百七十條ノ規定ヲ妨ケス

第三百九十八條 指圖證券ノ裏書讓渡ハ白地ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十九條 指圖證券ノ發行人ハ受取證ヲ記シタル指圖證券ノ呈示及ヒ交付ヲ受ケタルトキハ豫メ引受ヲ爲サスト雖トモ其證券ニ記載シタル金額又ハ商品ヲ裏書讓受人ニ引渡ス義務アリ

但第三百八十七條ニ依リテ留置權ノ原因タル反對債權チ有スル場合ニ於テハ其辨濟チ受ケタルトキニ限ル

第四百條 指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スル權利アルモ其義務ナシ然レトモ惡意又

ハ甚シキ怠慢ニ付テハ此方爲メ損害チ受ケタル者ニ對シテ其責チ負フ

第四百一條 指圖證券ノ發行人ハ前二條ノ旨趣ニ從ヒ自己ニ屬スル抗辯又ハ證券面ヨリ生スル抗

辯ニ依ルニ非サレハ義務ノ履行チ拒ムコトヲ得ス

第四百二條 裏書讓受人カ裏書讓渡ニ因リテ受取リタル物ニ付キ如何ナル權利チ有スルカハ裏書

讓受人ト裏書讓渡人トノ間ニ取結ヒタル契約ノ旨趣ニ依リテ之ヲ定ム

第四百三條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル指圖證券ハ裏書讓渡アリタルト否トナ問ハ

ス民事訴訟法ニ從ヒテ權利者之ヲ無効トスル手續ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 切手、切符其他ノ無記名證券ハ交付ノミチ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得此等ノ

證券ニ因リ所持人カ發行人ニ對シテ有スル權利ハ其證券ニ記載シタル旨趣又ハ法律、命令若ク

ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

第一節 總則

第四百五條 代辦人、仲立人、仲買人及ヒ運送取扱人ノ權利義務ハ第七章第六節ニ掲ケタル原則ニ

從ヒテ之ヲ定ム但下ノ數條ニ別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二節 代辦人

第四百六條 代辦人ハ商事ニ於テ他人ノ代理ヲ爲スチ營業トスル商人タリ

代辦人ハ或ル營業者ノ代辦店ノ業務ヲ取扱フ爲メニモ之ヲ置クコトヲ得

第四百七條 代辦人ハ自己ノ計算ヲ以テ商業其他ノ職業ヲ行ヒ又數人ノ代理ヲ引受クルコトヲ得

然レトモ一箇ノ取引ニ付キ同時ニ雙方ヲ代理スルコトヲ得サルヲ通例トス

第四百八條 代辦ノ契約ハ一箇ノ取引ノ爲メ又ハ一種類若クハ數種類ノ取引ノ爲メ有期ト無期ト

又明示ト默示トナ問ハス之ヲ取結フコトヲ得又其契約ハ何時ニテモ一方ヨリ之ヲ解クコトヲ得

然レトモ其契約ヨリ生シタル權利及ヒ過失ニ出ツル解除ニ因リテ被フラシメタル損害チ賠償ス

ル義務ハ契約ヲ解キタルカ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四百九條 代辦人ハ特ニ委任者ノ求ナキモ其委任セラレタル取引ノ範圍内ニ於テ委任者ノ利益

ヲ謀ル義務アリ然レトモ滿期ト爲リタル自己ノ債權ノ辨濟チ受ケタル間ハ其任務チ履行スルコ

トヲ要セス

第四百十條 委任者ニ對スル代辦人ノ代理權ノ範圍ハ委任者ヨリ與ヘタル委任又ハ事後ノ承諾

ニ依リテ之ヲ定ム常囑ノ代辦人ニ在テハ其事後ノ承諾ヲ以テ引續ノ委任ト看做ス但反對ノ情況

又ハ明示アルトキハ此限ニ在ラス

第四百十一條 代辦人ハ明示ノ委任チ受クルニ非サレハ契約ノ取結ヲ爲スコトヲ得サルヲ通例ト

ス

第四百十二條 取引ノ取結ヲ爲スノミノ委任チ受ケタル代辦人ハ支拂ノ金錢若クハ差戻ノ商品チ

受取り又ハ異議チ承諾スル權利ナシ

第四百十三條 代辦人ハ別段ノ委任チ受クルニ非サレハ和解契約ヲ取結ヒ又ハ訴訟ヲ爲ス權利チ

シ

第四百十四條 商品ノ引渡其他契約履行ノ爲メ委任ヲ受ケタル代辦人ハ其代價ノ支拂ヲ受ケル權
利アリト看做ス但委任者其反對ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十五條 代辦人ハ其取扱ヒ又ハ取結ヒタル取引ニ關シテハ過失アルトキ又ハ別段ニ義務ヲ
負擔シタルトキニ限り第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ其別段ニ義務ヲ負擔
シタル場合ニ於テハ第二百八十八條ノ規定ヲ適用ス

第四百十六條 常囑ノ代辦人其行爲ニ付キ第三者ノ間ニ對シテ已レニ其權アリト明言シタルトキ
又ハ其行爲力慣習上委任ノ範圍内ニ在ルトキハ委任者ハ善意ナル第三者ニ對シテ責任ヲ負フ

第四百十七條 代辦人其行爲ニ付キ第三者ヨリ口錢、報酬又ハ償金ヲ受ケルトキハ之ヲ委任者ノ
計算ニ歸ス可シ然ラサルトキハ委任者其行爲ニ付キ責任ヲシト述フルコトヲ得

第四百十八條 代辦人ハ自己ノ受取ル可キ手数料、前貸金、立替金、費用及ヒ利息ノ爲メ第三百
八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ委任者ニ對シテ留置權ヲ有ス又其現ニ支拂ヒタル立
替金及ヒ費用ニ付テハ商慣習又ハ實際ノ必要ニ依リ又ハ委任者ノ利益ノ爲メ正當ト認ム可キ
ノニ限り之ヲ委任者ノ負擔ニ歸スルコトヲ得

第三節 仲立人

第四百十九條 仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケ他人間ノ商取引ノ媒介ヲ爲スヲ營業トスル商人ニシテ取
引所ナキ地ニ於テハ商品、有價證券、貨幣及ヒ爲替ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスル專權ヲ有ス其
仲立人ノ行爲ハ總テ公ノ信用アルモノトス

第四百二十條 仲立人ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メニ認可セララルコトヲ得
仲立人ハ仲立營業外ノ商業ヲ爲スコトヲ得然レトモ其地ノ情況ニ因リテ二箇以上ノ仲立營業

部類チ一人ニ兼テシムルコト及ヒ仲立人ナシテ取引所ニ於テ其營業ヲ爲サシムルコトヲ官ヨリ
又ハ取引所定款ニ於テ許スコトヲ得

第四百二十一條 何人ニテモ年齢滿二十五歳ニ達シ少ナクトモ五年間其部類ノ商ニ從事シ且聲聞
ニ瑕瑾ナキ者ニ限り仲立人ト爲ルコトヲ得但破産シタル者ハ復權ヲ得タル後ニ非サレハ仲立人
ト爲ルコトヲ得ス

第四百二十二條 仲立人ハ其業務ヲ始ムル以前ニ保證金ヲ差出ス可キモノトス其額ハ各地及ヒ各
商部類並ニ二箇以上ノ仲立營業部類ヲ兼テシムル場合ノ爲メ省令ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ二萬
圓ヲ超ユルコトヲ許サス

第四百二十三條 仲立人ノ員數ハ各地ノ爲メ及ヒ其地ノ各商部類ノ爲メ其需用ニ應シテ之ヲ定ム
ルコトヲ得

第四百二十四條 仲立人ハ其資格アル者ニ其營業ヲ讓渡シ又ハ相續セシムルコトヲ得ルト雖モ其
承繼人ハ官ノ認可ヲ受ケ及ヒ保證金ヲ差出シタル後ニ非レハ其營業ヲ行フコトヲ得ス

第四百二十五條 一地ノ仲立人又ハ一地ニ於ケル或ル商部類ノ仲立人十人以上アルトキハ其仲立
人ハ官ノ認可ヲ受ケタル後組合ヲ成スコトヲ得此場合ニ於テハ其組合中ヨリ一箇年ノ任期ニテ
少ナクトモ三人ノ取締役ヲ選舉ス可シ總テ其地ノ仲立人ハ此組合ニ加入スル權利及ヒ義務アリ

第四百二十六條 仲立人及ヒ仲立人組合ハ共通計算ヲ以テ仲立營業ヲ爲スコトヲ許サス之ニ背ク
トキハ仲立人ニ在テハ其營業ヲ禁止シ組合ニ在テハ其組合ヲ解散シ尙ホ其組合員ノ營業ヲ禁止
ス然レトモ仲立人組合ハ其組合定款ニ從ヒテ各組合員ノ爲メニ共同保證ヲ引受クルコトヲ得

第四百二十七條 仲立人組合ハ多數決ヲ以テ其營業ヲ行フ爲メノ定款ヲ設ク可シ此定款ハ商業會

議所及ヒ取引所又ハ其一ノ存スル地ニ在テハ其承諾ヲ經且官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス各組合員ハ其定款ヲ遵守スル義務アリ

前項ノ規定ハ定款變更ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

定款ハ法律、命令、商慣習及ヒ其他ノ取引所定款ニ背戾スルコトヲ得ス

第四百四十八條ノ規定ハ取締役ノ決議ニ付テモ之ヲ適用ス

第四百二十八條 取締役ハ左ニ掲クル權利及ヒ義務アリ

第一 仲立人カ其職務範圍内ニ屬スル取引ニ於テ法律、命令及ヒ仲立人組合定款ヲ遵守スルヤ否ヤヲ監視スルコト

第二 組合員中ニ違犯者アルトキハ之ヲ懲責シ且必要ノ場合ニ於テハ其處罰及ヒ除名ヲ申立ツルコト

第三 取引所ナキ地ニ於テハ各組合員ヨリ提出スル覺書ニ基キ少ナクトモ一週日毎ニ爲替相場及ヒ貨幣商品並ニ有價證券ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスルコト

第四 其定メタル相場ヲ絶エス記入スル爲メ帳簿ヲ備ヘ且求ニ應シテ公定ノ相場書ヲ交付スルコト

第五 裁判所又ハ官廳ノ求ニ應シテ商ノ情況ヲ開陳シ又慣習ニ付キ意見ヲ陳述スルコト

第六 仲立人ノ認可及ヒ員數ノ増減ニ付キ意見ヲ陳述スルコト

第七 總テ組合内部ノ事務ヲ管理スルコト

第四百二十九條 仲立人ハ其媒介スル取引ニ於テ雙方ヲ代理スル權利アリ
仲立人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ何人ノ委任タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四百三十條 仲立人ハ自己又ハ他人ノ計算ノ爲メニスルモ自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルヲ自己ニ直接又ハ間接ノ利害アル取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲立人ハ他人ノ爲メニ支拂若クハ保證其他ノ擔保ヲ受ケ又ハ爲シ又ハ他人ノ爲メニ商品ニ對シテ前貸ヲ爲スコトヲ得ス

仲立人ハ代務人又ハ商業使用人タル資格ヲ以テ他人ノ用ヲ辨スルコトヲ得ス
前三項ノ規定ヲ犯シテ仲立人ノ爲シタル取引ハ總テ無効トス

第四百三十一條 仲立人ハ委任者ニ對シテ詳悉、完全及ヒ正實ニ必要ノ申告ヲ爲ス可シ其中告ニ付キ殊ニ其媒介シタル取引ニ關シテハ委任者ノ人選ニ非サルコト無能力者ニ非サルコト及ヒ署名捺印ノ真正ナルコトニ付キ責任アルモノトス又其地ノ顯著ナル商人ニ於テ人選ニ非サルコトヲ擔保スルニ非サレハ面識ナキ人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ取引ヲ媒介スルコトヲ得ス

第四百三十二條 仲立人ハ委任者ノ求ニ應シテ事務ヲ秘スル義務アリ

第四百三十三條 仲立人ハ其媒介シタル取引ニ付キ自ラ其商品ノ存在、品位及ヒ買主ノ支拂資力ヲ確認シ且其受取リタル雛形及ヒ見本ニ相當ノ記號ヲ附シ其取引ノ終了スルマテ之ヲ貯藏ス可シ

第四百三十四條 仲立人ハ手形其他ノ有價證券ノ取引ニ付キ委任ヲ受クルトキハ賣主ニ對シテハ證券ノ交付ヲ求メ買主ニ對シテハ價額ノ少ナクトモ百分ノ二十ノ前拂ヲ求ム可キモノトス

第四百三十五條 仲立人ハ當事者ノ明言アルトキニ限り取引ヲ取結フ權アリ匿名委任者ノ場合ニ於テハ取引取結ノ權限ニハ辨濟又ハ報償ヲ受クル權ヲ併セテ與ヘタルモノト看做ス

第四百三十六條 仲立人ハ違法若クハ制禁ノ取引又ハ空取引ヲ媒介スルコトヲ得ス

第四百三十七條 仲立人ハ自ラ業務ヲ營ム可キモノニシテ殊ニ取引取結ニ付テハ使用人又ハ代理人ヲ用ユルコトヲ得ス

第四百三十八條 仲立人ハ其擔任義務ノ違背其他ノ過失ニ付キ委任者ニ對シテ損害賠償ヲ爲ス責ニ任ス

第四百三十九條 匿名委任者ノ爲メ取結ヒタル取引ニ付テハ仲立人獨リ直接ニ請求ヲ受ク

第四百四十條 仲立人ハ其取結ヒタル取引ノ要旨ヲ特設ノ日記帳ニ日記入シ自ラ其記入ヲ日
日閉鎖シテ之ニ署名捺印シ且週クトモ翌日中ニ關係アル部分ノ謄本ニ署名捺印シテ之ヲ委任者
雙方ニ交付ス可シ但其謄本ハ指圖式ト爲スコトヲ得

其一方ニ於テ右謄本ノ旨趣ニ對シテ異議ヲ唱ヘ又ハ承諾スルコトヲ肯セサルトキハ仲立人直チ
ニ之ヲ他ノ一方ニ通知ス可シ但他ノ一方カ匿名委任者ニ非サルトキニ限ル

第四百四十一條 死亡シ又ハ退職シタル仲立人ノ日記帳ハ仲立人組合ノ取締役ニ於テ其組合ナキ
地ニ在テハ裁判所ニ於テ之ヲ預リ置ク可シ

第四百四十二條 仲立人ノ手数料ハ別段ノ定例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除ク外其取引結了ノ後ニ
非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

手数料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

手数料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキトキニ限り委任者雙方ヨリ各其半額ヲ拂フヲ通例トス

第四百四十三條 仲立人カ適法ノ手数料ヲ超過シタル報酬又ハ惠與ヲ委任者ノ一方ヨリ受タタル
トキハ他ノ一方ニ於テ其取引ヲ無効ナリト陳述スルコトヲ得

第四節 取引所仲立人

第四百四十四條 取引所ハ取引所定款ノ規定ニ從ヒテ商取引ヲ爲ス所ノ公設場トス

第四百四十五條 相應ノ商アル地ニ於テハ其地又ハ其一區域内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル部類ノ
商取引ノ爲メ官ノ認可ヲ得テ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第四百四十六條 取引所ハ取引場ヲ定メ定款ヲ設ケ及ヒ取締役ヲ置ク可シ此諸件及ヒ其變更ニ付
テハ官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四百四十七條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特別ノ法律、命令アルニ非サレハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
若シ其定ナキトキハ取締役其定款ニ準據シテ之ヲ定ム

第四百四十八條 取締役ノ決議ヲ不當又ハ有害ナリトシテ異議ヲ述フル者アルトキハ農商務省ニ
於テ雙方ヲ審訊シタル後其理由ヲ示シテ之ヲ裁決ス

第四百四十九條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引所ニ非サレハ商フヲ得サルコトヲ官ヨリ規定スルコ
トヲ得

此規定ニ違フ者ハ二圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十條 取引所ニ於テハ其賣買ヲ許サレタル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ倉荷證書
ヲ發行スルコトヲ得取締役又ハ取引所仲立人ハ其倉荷證書ニ對シテ前貸ヲ爲シ又ハ之ヲ買受ク
ルコトヲ得ス

第四百五十一條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ差出シタル
後取締役ヨリ其職ニ充テラルルモノトス其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ヲ遵守スルコトヲ

誓フ可シ

第四百五十二條 仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取締役ノ中少ナクトモ一人ヲ取引所取締役ニ選ム可シ

第四百五十三條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應スル員數ノ仲立人ヲ置ク可シ

第四百五十四條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ之ヲ遵守ス可シ

第四百五十五條 仲立人取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏省及ヒ農商務ノ監督ヲ受ケ

第五節 仲買人

第四百五十六條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム商人タリ

第四百五十七條 仲買人ノ第三者ト取結ヒタル取引ノ效力ハ第三者ニ對シテハ委任者ノ委任又ハ承諾ニ關係セス

第四百五十八條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委任ヲ遵守スル義務アリ其委任ノ踰越其他ノ過失ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テハ委任者ニ對シテ其實ニ任ス

第四百五十九條 仲買人事情避ク可カラザリシコトト委任者ノ爲メ更ニ大ナル損害ヲ防止シタルコトトヲ證明スルトキハ委任踰越ノ責ヲ免カル但委任者カ明示又ハ默示ニテ其委任ヲ必行ス可キコトヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十條 仲買人ハ委任踰越ニ因リテ委任者ノ損失ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ニ負擔スルヲ以テ委任踰越ノ責ヲ免カルコトヲ得ス

第四百六十一條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リテ委任者ノ利益ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ノ有ニ歸スルコトヲ得ス

第四百六十二條 第四百九條ノ規定ハ仲買人ニモ之ヲ適用ス殊ニ仲買人ハ取引施行ノ前後ヲ問ハス常ニ遲延ナク委任者ニ必要ノ報知ヲ爲シ且運送、貯藏、保險、賣買其他總テ商業上ノ作用ニ付キ十分ニ所有者ノ利益ヲ謀ル可シ

第四百六十三條 仲買人ハ必要ノ前貸金ヲ遲滞ナク交付セラレ又ハ取引ヨリ生ス可キ自己ノ請求ニ對スル引當チ有シ若クハ擔保ヲ得タルトキハ總テ其營業ニ關スル委任ヲ引受クル義務アリ

第四百六十四條 仲買人委任ノ引受チ肯セサルトキハ委任者ニ通知シ且寄託ノ貨物ヲ適當ニ保存スル義務アリ若シ其通知チ爲サザルトキハ委任履行ノ責ニ任ス

第四百六十五條 仲買人ハ別段ノ契約ナキトキハ委任者ニ又ハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸チ爲ス義務ナシ然レトモ委任者ノ承諾ヲ得タルトキハ又ハ其承諾ナキモ商慣習アルトキハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸チ爲シ又ハ信用ヲ與フル權利アリ

第四百六十六條 仲買人ハ第四百十五條ノ規定ニ從ヒ第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ實ニ任ス然レトモ其責任ハ第三者カ責ニ任ス可キマテテ以テ限トス

第四百六十七條 委任者ハ仲買人ニ與ヘタル委任ノ未タ施行セサルモノニ限り何時ニテモ之ヲ變更シ又ハ變更スルコトヲ得

仲買人ハ第四百六十三條ノ規定ニ依リテ委任ノ引受チ拒ミ得ルトキニ限り解約ヲ申込ム權利アリ但正當ニ其申込チ爲シタル後ト雖モ惡意又ニ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ責ニ任ス

第四百六十八條 仲買人委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル又死亡其他委任ヲ施行スルコト能ハサル事由ニ因リテハ此事由ニ基キテ其關係ヲ解クコトヲ一方ヨリ明言シタルトキニ限り終ルモノトス

第四百六十九條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同種類又ハ他種類ノ取引ヲモ爲ス商利アリ

前項ノ商人ニシテ仲買取引ヲ常業ト爲ササル者ニハ第四百六十三條ノ規定ヲ適用セス

第四百七十條 仲買人ハ委任者ニ於テ反對ノ明言ヲ爲ササルトキハ其受ケタル委任ヲ買主、賣主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ計算ヲ以テ施行スルコトヲ得然レトモ委任者ニ對スル自己ノ權利及ヒ義務ハ變更スルコト無シ

第四百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ自己ノ計算ヲ以テ引受ケタル旨ノ通知ヲ委任者ニ發送シタル時直チニ其委任ヲ施行シタルモノト看做ス

第四百七十二條 仲買人ハ委任施行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ其取引ノ賣得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支拂ヒ又ハ計算ニ立ツ可シ

第四百七十三條 委任者ノ計算ヲ以テ買入レ又ハ引受ケタル商品ハ委任ニ他ノ定ナキトキハ仲買人ノ計算ニ於テハ有效トス然レトモ第三百八十一條ノ規定ハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四百七十四條 仲買人ノ取引ニシテ委任者ノ承認スル義務ナキモノハ其承認ナキニ拘ハラズ仲買人ノ計算ニ於テハ有效トス然レトモ第三百八十一條ノ規定ハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ又仲買人ハ委任者ニ總テノ損害ヲ賠償ス可シ

第四百七十五條 仲買取引ヨリ生シタル債權及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務タルヲ通例トス然レトモ仲買人其債權ヲ委任者ニ讓渡シ又ハ支拂資力ヲ失ヒタルトキハ委任者直チニ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得

第四百七十六條 仲買人ハ委任者ニ爲シタル前貸ノ償還ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ求ムル權利アリ

第一 必要又ハ有益ニシテ商價習ニ適スルモノニ限り現ニ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ノ辨償

第二 各地價習又ハ契約上ノ仲買手数料

第三 仲買人ニ於テ資力保證ヲ負擔シタルトキハ其保證料

仲買人ハ右ノ債權ニ付キ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒテ留置權ヲ有ス

第四百七十七條 仲買人ノ過失ニ非スシテ委任ヲ施行セザリシトキト雖モ仲買人ハ價習アル地ニ限り仲買手数料ヲ求ムルコトヲ得但し其額ハ通常手数料ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ス

第四百七十八條 仲買人ハ仲買ノ爲メ取扱フ商品ニ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得

然レトモ其商品ニ附シタル他ノ商人又ハ製造人ノ商標又ハ製造標ヲ其承諾ヲ得スシテ變更シ又ハ除去スルコトヲ得又他ノ商人又ハ製造人ヨリ出テタル仲買商品ニ出所ノ區別ヲ表セスシテ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得ス

第四百七十九條 仲買人或ル見本又ハ雛形ニ從ヒテ委任ヲ施行ス可キトキハ反對ノ明約ナキトキニ限り正當ノ所有者又ハ製出者ニ依ルニ非サレハ其委任ヲ施行スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ委任者ハ其商品カ見本又ハ雛形ニ適スルト否トヲ問ハス其契約ヲ解クコトヲ得

第四百八十條 書籍其他器械ヲ以テ複製スル學藝、技術上ノ製出物ノ發行引受ハ仲買營業ノ原則ニ依ル可シ

第六節 運送取扱人

第四百八十一條 運送取扱人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商品其他ノ物ノ運送取扱ヲ營業トスル商人タリ

運送取扱人ハ其營業ノ外亦自己ノ計算又ハ他人ノ計算ヲ以テ他ノ商取引ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 運送取扱人ハ運送賃ヲ約定シタルト否トヲ問ハス又其引受ケタル運送ヲ自己ノ運送具、賃借ノ運送具又ハ他人ノ運送具ヲ以テ施行スルト施行セシムルトヲ問ハス仲買人及ヒ運送營業人ト同一ノ責ニ任ス

第四百八十三條 運送取扱人ハ別段ノ契約ヲ爲ササルトキ又ハ直接ニ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其運送ヲ遞次施行スル總テノ中間運送取扱人、代辦人、運送營業人其他ノ人ノ爲メ運送營業人タル責ニ任ス

第四百八十四條 運送取扱人ハ運送狀ヲ發行ス可シ其運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲グルコトヲ要ス

第一 年月日、運送取扱人ノ氏名及ヒ住所

第二 運送營業人ノ氏名及ヒ住所

第三 運送品ノ種類及ヒ重量

第四 行李アルトキハ其箇數、性質及ヒ記號

第五 約定シタル引渡ノ地及ヒ時

第六 運送賃

其他運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲グルコトヲ得

第一 運送品ノ價額

第二 名宛人ノ氏名

第四百八十五條 運送狀ハ反對ヲ明記セサルトキハ指圖式トス又無記名式ニテ之ヲ發行スルコト

ヲ得

第四百八十六條 運送品ノ差出人ハ運送狀一通又ハ數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四百八十七條 運送取扱人ハ其取結ヒタル總テノ運送取扱契約ヲ特設ノ帳簿ニ日記入シ且其帳簿ヲ日閉鎖シテ之ニ署名捺印ス可シ各運送狀ハ其帳簿ノ記入ト同文ナルコトヲ要ス

第四百八十八條 運送狀ノ記入ニシテ運送取扱契約又ハ法律、命令ニ背戾スルモノハ無効トス

第四百八十九條 運送取扱人ハ左ニ掲グルモノヲ求ムルコトヲ得

第一 運送取扱人ヨリ運送品ニ對シテ爲シタル前貸及ヒ其立替ヘタル運送賃ノ償還

第二 運送取扱人ヨリ運送品ノ爲メニ支拂ヒタル必要又ハ有益ノ費用及ヒ立替金ノ償還

第三 各地慣習又ハ契約上ノ運送取扱手数料但運送賃額ヲ定メタル場合ニ於テハ其手数料ヲ明約シタルトキニ限ル

運送取扱人ハ右ノ債權ニ付テハ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ運送品ニ對シテ留置權ヲ有ス

第四百九十條 運送取扱人ノ債權ハ特約アルニ非サレハ到達地ニ於テ運送品ヲ引渡ス際運送取扱人、其受次人又ハ約定シタル運送ノ全部若クハ一分ヲ施行シタル者ヨリ始メテ之ヲ主張スニコトヲ得

第四百九十一條 運送取扱人ノ責任ニ因リテ生スル請求又ハ抗辯ニ對シテハ運送取扱人及ヒ前條ニ掲ケタル各人ハ連帶且無條件ニテ其責ニ任ス

第四百九十二條 本節ノ規定ハ旅客ノ運送、新聞紙、電報、印刷物其他ノ物ノ送達並ニ廣告ノ取次其他ノ送達事業ヲ營業トスル人ニモ之ヲ適用ス然レトモ運送仲立人、代辦人、商事間合場及ヒ此